

1999年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 劃 圖

與 2000

圖 信 義 精

第 九 卷 第 一 期

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	02	通 期	4 単位	山 崎 充 彦
[講義概要・学習目標] 「歴史」の捉え方、教え方ほど難しいものはない。諸君たちのなかには、あるいは歴史とは単なる年号の羅列であると考え、歴史学習とは、年号と歴史的事件を暗記すればよいと思っている人がいるかも知れない。だが、歴史は年号の羅列ではないし、歴史研究・歴史学習とは決して暗記だけでこと足るものでもない。諸君らが、「歴史的事実」と確信していることであっても、その評価や位置づけは時代や人によって様々に変わることも稀ではない。 この講義では、まず、担当者が、歴史的なものの方とは何かについて述べ、歴史の研究・解釈が研究する者の立場に依拠する実例を挙げて、「歴史研究の持つ危うさ」を指摘するところから始める。	[講義計画] この講義は、教職科目でもあり、将来、社会科教師として実際に教壇に立つことを目指す人を念頭において、進めてゆく。 ・担当者の講義 1、歴史研究の持つ問題性 2、ヨーロッパ中心史観の問題性 3、現代史をどう解釈するか。 ・模擬授業の実施 担当者の講義のみならず、受講生の模擬授業を積極的に取り入れる。とりわけ、4回生諸君は教育実習を控えているわけであるから、まず4回生から模擬授業を行ってもらおう。 ・ビデオ上映 現代史と歴史学習に関するビデオを観てそれに関するレポートを提出してもらおう。			
[成績評価の方法] 学年末試験及び模擬授業やビデオに関するレポートなどで総合的に判断する。	[参考文献] 参考文献は授業中に随時紹介するが、さしあたり、以下の文献を挙げておく。 ・栗原 優、『ナチズムとユダヤ人絶滅政策 -ホロコーストの起源と実態』ミネルヴァ書房 ・T・バスティアン、『アウシュヴィッツと<アウシュヴィッツの嘘>』、白水社			
[教科書] 使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然地理学	01 02	通 期 通 期	4 単位 4 単位	野 尻 亘
[講義概要・学習目標] 地理歴史科および中学校社会科の教職科目として自然地理学の履習が必要となっている。本来、自然地理学は多岐の内容にわたっており、文系の学生にとって履習の嫌われる科目の一つであろう。 しかし、本講義では、人間の生活環境として、自然との関係についてわかりやすく説明することとした。 前期は環境思想の系譜について、ヒューマン・エコロジーの考え方を概説する。 後期は、日本の気候・地形・植生などの各地方別の特徴について紹介する。また教員採用試験に時おり出題される地形図読解問題については、プリントを配って、解答指導することにとつとめたい。	[講義計画] <前期> 1. 環境教育と公害教育 2. 個体群・群集・生態系の概念 3. 環境思想の系譜 4. ヒューマン・エコロジーの思考 5. 最近のエコロジー思想 <後期> 6. 日本列島の成立と地形の特色 7. 地角斜造山からプレートテクトニクスへ 8. 火山と地震 9. 断層と地すべり 10. 日本の気候区分 11. 日本の植生地域区分 12. 災害と人々の生活 13. 自然地理学の発展と課題			
[成績評価の方法] レポートにするか試験にするかは授業の進捗と履習状況をみて決定する。	[参考文献] 藤田和夫『変動する日本列島』岩波新書 黄306 平 朝彦『日本列島の誕生』岩波新書 新赤148			
[教科書] 使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地誌	01	後 期	2 単位	野尻 亘
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>情報があふれている現代社会において、学校教育現場では何を世界地理の授業として教えるべきか。環境教育・人権教育・国際理解教育の基礎として、世界地誌の各テーマを取り上げ、地理歴史科の教材として開発し活用する方法について、検討する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(後期) 1. 地理学と地誌との違い 2. 景観・等質地域・結節地域の諸概念 3. 地域学習の教材をどのように見出すか 4. ヨーロッパの統合 EUの形成とその課題 5. 旧西ドイツの外国人労働者問題 6. アメリカ合衆国 開拓の理想と現実 インナーシティ問題 7. ラテンアメリカ モノカルチャー経済の悩み 8. オーストラリア 白豪主義の克服 日本による資源開発 9. オセアニア 核実験に抗議する島々の暮らし 10. アフリカ 砂漠化と食糧問題 11. シベリア 開発とその課題 12. アジア NIEs諸国の経済発展</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートにするか試験にするかは、授業の進捗と履修状況をみて決定する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中学・高校時で使用した「地図帳」(出版社を問わない)を持参していただければ望ましい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地 誌	02	9月集中	2 単位	古 田 昇
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>大学の位置する大阪府は、我が国の中でもきわめて自然環境にめぐまれた地域といえる。 また、国土のほぼ中央に位置し、五畿内の3国をいだき、古くから開発が進んだこと、今日でも重要な国土軸の一翼を担っていることなど、その地理的特徴を知ることは、国土を理解する上で大いに意義あることである。 本講義では、大学の位置する旧和泉国を中心とする地域のあらましを、自然・人文の両面から理解することを大きな目標の一つとしたい。 そのために、まず和泉地方の詳細な地形環境とその変化を紹介するとともに、近畿地方における位置づけを述べたい。 そして、和泉地方の特徴を、我が国全体の中で、さらには、グローバルな視野で位置づけられるような思考をはぐむ手助けができればと考えている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>①我が国の自然環境の特色と地域性 ……地形環境・気候環境・植生の状況・その他</p> <p>②我が国の縄文時代以降の開発の歴史と特色 ……畿内・瀬戸内・大陸との交流を中心として</p> <p>③近畿地方の地理的位置と開発 ……最近の考古学・環境歴史学などの成果から</p> <p>④和泉地方の地理的性格と地形環境の変化(その1) ……地形・地質概観と他地域との比較。池上曾根遺跡等の成果から。</p> <p>⑤和泉地方の地理的性格と地形環境の変化(その2) ……狭山池の築造と変化。久米田池の開発をめぐる。日根野荘の開発など。</p> <p>⑥まとめ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、受講態度、レポート、試験等を総合評価する。集中講義の性格上真摯な態度での受講を期待したい。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『図説 日本の地域構造』石井素介・浮田典良・伊藤喜栄、古今書院。 『日本の気候』倉嶋厚、古今書院。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に定めない。講義の中で随時紹介したい。</p>	<p>など。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
職業指導		通 期	4 単位	松 原 勇
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>21世紀に向かったの職業人は、グローバル・スタンダードの識見とエネルギーに満ちた豊かな人間形成を図ることが最大の使命である。今日、産業社会が強く要請している職業人は、高い志しを持ち、優れた職業倫理を身につけ「自覚・責任」を持つて職務に情熱を傾け、自己の魅力ある感性を磨き、持てる能力を最大限に発揮できるように知識・技術の習得が求められる。</p> <p>本講では、その趣旨を踏まえ、産業社会に対応できる職業意識の高揚を目指し、職業観を明確にして職業能力の適性を伸長させ、職業指導の重点的な本筋を究明して講義する。</p> <p>併せて、就職活動の準備のための「期待される新職業人像」を網羅して、創造力・表現力等の方法論の実践指導も図る。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>(前期) 1 職業指導と生涯教育 5 期待される新職業人像 2 職業指導の必要性 6 学生生活と社会生活の相違 3 就職活動への指針 7 働くことの意義 4 就職試験の実践指導 8 職業人の心得</p> <p>(後期) 1 業務の上手な進め方 5 創造力・表現力の実践指導 2 ビジネス文書の書き方 6 魅力ある職業人を目指して 3 電話の取り扱い方 7 職業人の基礎知識等 4 職場の人間関係の重要性</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>主として、出席を厳しく重視して評価する。併せて、学年末試験の成績等も勘案のうえ、総合評価とする。</p>	<p>【参考文献】</p>			
<p>【教科書】</p> <p>松 原 勇 (著) 「新ビジネスマンの基礎知識」 (ぎょうせい)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査実習		通 期	4単位	竹 中 英 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この科目は「社会調査」の単位履修者を対象に、少人数・演習形式によって、社会調査の企画から実施、データ分析、報告書作成までのすべての過程を一通り体験することを目的として開講される。</p> <p>今年度は、年度当初に統一テーマを決めて、サブテーマ別に3~4人の班を編成し、それぞれの課題に取り組んでもらう予定である。</p> <p>なお、この科目を履修しようとする者は、同時に「社会学特講（社会調査方法論）」「社会学特講（データ解析演習）」も履修すること。</p> <p>さらに、正規の授業時間以外にも（休暇期間中にも）きわめて多くの学習・作業時間を必要とするので、安易な気持ちで受講してはならない。</p>		<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の企画・立案 ・調査票の作成 ・調査の実施 ・調査データの解析 ・調査報告書の作成 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業に最後まで出席し、報告書の執筆を担当した者だけが単位認定の対象者となる。</p>		<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桃山学院大学社会学部社会調査実習室『社会調査実習報告書』（1994年度以降、毎年発行） ・佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社 ・森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社 		
<p>[教科書]</p> <p>とくに使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学特講 (データ解析演習)		後 期	2単位	竹 中 英 紀
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この科目は「社会調査」の単位履修者を対象に、「社会調査実習」と並行して開講するもので、コンピュータを用いたデータ解析法の修得を目標とする。「社会調査実習」履修者は、かならず履修すること。</p> <p>授業では、統計パッケージ SPSS の操作と、出力結果の読みとりに関して、前期「社会学特講（社会調査方法論）」と同様に毎回、作業課題をこなしていく。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>毎回、コンピュータを使った作業が中心となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ上での変数の定義 ・データ入力と修正・加工 ・度数分布とグラフの作成 ・クロス集計とエラボレーション ・多変量解析法 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の作業課題の達成度により成績を評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内田治『すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析』東京図書 ・桃山学院大学計算機センター『ユーザーズ・ガイド』 		
<p>[教科書]</p> <p>とくに使用しない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学特講 (社会調査方法論)		前 期	2単位	竹 中 英 紀
[講義概要・学習目標] この科目は「社会調査」の単位履修者を対象に、「社会調査実習」と並行して開講するもので、社会調査のより高度な技法について理解を得ることを目標とする。「社会調査実習」履修者は、かならず履修すること。 授業では、[講義計画]に沿って作業課題をこなしていきながら、実践的な社会調査の技法を学んでいく。遅刻・無断欠席は厳禁。「社会調査実習」とあわせて、かなりハードな授業になることを覚悟の上、受講すること。		[講義計画] 原則としてテキストの内容に沿って、作業課題に取り組む。 ・標本抽出法 ・統計的検定 ・クロス集計とエラボレーション ・コーディング ・尺度構成法 ・評定法、序列法、一対比較法		
[成績評価の方法] 毎回の作業課題の達成度により成績を評価する。		[参考文献] ・東京大学教養学部統計学教室編『人文・社会科学の統計学』 東京大学出版会		
[教科書] 原純輔・海野道郎『社会調査演習』東京大学出版会				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術各論Ⅱ		通 期	4 単位	小野 達也
[講義概要・学習目標] 1 間接援助技術の内容と性格について理解させる。 2 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術について、老人や障害者を中心とする具体的事例に基づき、介護との関係に十分留意させつつ理解させる。 3 社会福祉調査法の理論と技術について、老人や障害者を対象とする具体的調査に基づき理解させる。 4 社会福祉の運営と計画の技術について理解させる。		[講義計画] 1 間接援助技術の内容と性格 2 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術 1) 地域援助技術の概念と基本的性格 2) 地域社会の組織化 ①地域組織化 ②福祉組織化 3) 地域援助技術 ①地域社会の診断方法 ②集団及び組織の診断方法 ③住民組織の方法 ④社会資源の開発と活用方法 ⑤集団及び組織・機関の調整方法 ⑥情報の収集・伝達及び活用方法 ⑦記録と評価の方法とその活用方法 ⑧地域福祉計画の策定方法 3 社会福祉調査法の理論と技術 1) 社会福祉調査の基本的性格と類型 ①基本的性格 ②諸類型 2) 統計調査法における調査技術 ①特質と意義 ②標本抽出の理論と技法 ③調査方法・手順・諸過程及び技術 3) 事例調査における調査技術 ①特質と意義 ②調査方法・手順・諸過程及び技術		
[成績評価の方法] 出席、授業態度 授業時の小テスト 学年末テスト、レポート等により総合的評価		[参考文献] 『社会福祉援助技術各論Ⅱ』（福祉士養成講座編集委員会 編集 中央法規） 他は授業時提示する。		
[教科書] 『社会福祉援助技術各論Ⅱ』 (新・社会福祉学習双書 第13巻 全国社会福祉協議会)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習	01	通期	4単位	大塚 美和子
	02	通期	4単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉の専門援助技術を、実技指導を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、老人や障害者を中心とする具体的事例をとりあげ、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>社会福祉援助技術が学生個々人が身につくよう、介護を必要とする老人や障害者の援助事例・児童支援の事例などをとりあげるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で、事例研究を中心としてすすめる。</p> <p>1 実習前においては、社会福祉援助技術のモデル的な事例をとりあげるなどして、社会福祉関連講義の内容を深めたり社会福祉実習の教育効果があがるようにする。</p> <p>2 実習後においては、社会福祉実習総括をふまえて、社会福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱなどの社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席とレポート提出を重視</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>平山 尚・平山 佳須美・黒木 保博・宮岡 京子（共著） 『社会福祉実践の新潮流－エコロジカル・システム・アプローチ』（ミネルヴァ書房）</p> <p>作画 鈴木 雅子、原作 椎名 篤子 『家族の中の迷子たち』（集英社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習	03	通期	4単位	大西 雅裕
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉の専門援助技術を、実技指導を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、老人や障害者を中心とする具体的事例をとりあげ、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>社会福祉援助技術が学生個々人が身につくよう、介護を必要とする老人や障害者の援助事例・児童支援の事例などをとりあげるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で、事例研究を中心としてすすめる。</p> <p>1 実習前においては、社会福祉援助技術のモデル的な事例をとりあげるなどして、社会福祉関連講義の内容を深めたり社会福祉実習の教育効果があがるようにする。</p> <p>2 実習後においては、社会福祉実習総括をふまえて、社会福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱなどの社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>・出席、授業での積極的な参加活動等の状況による総合評価とする。 ・2/3以上の出席がないと評価対象から除外するので注意すること。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>平岡・宮川・黒木・松本（共著） 『対人援助 ソーシャルワークの基礎と演習』 尾崎 新（著） 『対人援助の技法』（誠信書房）</p> <p>その他適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習	04	通 期	4 単位	小 西 加保留
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉の専門援助技術を、実技指導を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、老人や障害者を中心とする具体的事例をとりあげ、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>社会福祉援助技術が学生個々人が身につくよう、介護を必要とする老人や障害者の援助事例・児童支援の事例などをとりあげるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で、事例研究を中心としてすすめる。</p> <p>1 実習前においては、社会福祉援助技術のモデル的な事例をとりあげるなどして、社会福祉関連講義の内容を深めたり社会福祉実習の教育効果があがるようにする。</p> <p>2 実習後においては、社会福祉実習総括をふまえて、社会福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱなどの社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、課題への参加状況、レポート等によって、総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>D.エバンス、M.ハーン、M.ウルマン、A.アイビー（著） 『面接のプログラム学習』（相川書房）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>講義時に提示する。（プリント資料）</p>	<p>アレン・E・アイビー（著） 『マイクロカウンセリング』（川島書店）</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習	05	通 期	4 単位	竹 中 麻由美
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 社会福祉の専門援助技術を、実技指導を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、老人や障害者を中心とする具体的事例をとりあげ、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>社会福祉援助技術が学生個々人が身につくよう、介護を必要とする老人や障害者の援助事例・児童支援の事例などをとりあげるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で、事例研究を中心としてすすめる。</p> <p>1 実習前においては、社会福祉援助技術のモデル的な事例をとりあげるなどして、社会福祉関連講義の内容を深めたり社会福祉実習の教育効果があがるようにする。</p> <p>2 実習後においては、社会福祉実習総括をふまえて、社会福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱなどの社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常レポート、試験</p>	<p>[参考文献]</p> <p>「ケースワークの原則」</p>			
<p>[教科書]</p> <p>バイスティック『ケースワークの原則』（誠信書房） 授業中指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習	06	通 期	4 単位	津 田 耕 一
	07	通 期	4 単位	
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、実技指導を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、老人や障害者を中心とする具体的事例をとりあげ、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。	[講義計画] 社会福祉援助技術が学生個々人が身につくよう、介護を必要とする老人や障害者の援助事例・児童支援の事例などをとりあげるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で、事例研究を中心としてすすめる。 1 実習前においては、社会福祉援助技術のモデル的な事例をとりあげるなどして、社会福祉関連講義の内容を深めたり社会福祉実習の教育効果があがるようにする。 2 実習後においては、社会福祉実習総括をふまえて、社会福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱなどの社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] 出席率、授業への積極的参加度(発表、ディスカッションなど)、小テスト、レポート提出について評価を行い、総合的にまとめたものを成績評価とする。	[参考文献] F.P.バイスティック著、尾崎新ほか訳『ケースワークの原則』(誠信書房) D. エバンズほか著、杉本照子監訳『面接のプログラム学習』(相川書房)			
[教科書] 相澤譲治、津田耕一編著『事例を通して学ぶ社会福祉援助』(相川書房)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術演習	08	通 期	4 単位	藤 田 譲
	09	通 期	4 単位	
[講義概要・学習目標] 1 社会福祉の専門援助技術を、実技指導を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、老人や障害者を中心とする具体的事例をとりあげ、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。	[講義計画] 社会福祉援助技術が学生個々人が身につくよう、介護を必要とする老人や障害者の援助事例・児童支援の事例などをとりあげるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で、事例研究を中心としてすすめる。 1 実習前においては、社会福祉援助技術のモデル的な事例をとりあげるなどして、社会福祉関連講義の内容を深めたり社会福祉実習の教育効果があがるようにする。 2 実習後においては、社会福祉実習総括をふまえて、社会福祉援助技術各論Ⅰ・Ⅱなどの社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。			
[成績評価の方法] 出席状況＝50% 小テスト＝30% レポート(年2回)＝20% 上記の比重にて評価を行う。	[参考文献] 適時紹介する。			
[教科書] 武田 建『心を育てる』(誠信書房) 武田 建・荒木 義子(編著)『臨床ケースワーク』(川島書房)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習 1	0 1	通期	—	松端 克文
	0 2	通期	—	安原 佳子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 現場体験を通して社会福祉専門職(社会福祉士)として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。</p> <p>2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力・技術を習得する。</p> <p>3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた行動ができるようにする。</p> <p>4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。</p> <p>5 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1 実習オリエンテーション(社会福祉現場実習の概略を学ぶ)</p> <p>2 福祉施設・機関・団体研究(視聴覚学習、現場体験学習、見学実習)</p> <p>3 専門援助技術実技指導(事例研究・ロールプレイを含む)</p> <p>4 面接実技指導</p> <p>5 記録実技指導</p> <p>6 評価・効果測定実技指導</p> <p>7 配属実習</p> <p>8 実習先個別報告と評価</p> <p>9 業務分析</p> <p>10 事例研究・実習計画モデル作成</p> <p>11 実習記録に基づく実習総括レポートの作成</p> <p>12 個人スーパービジョン(自己覚知)及び集団スーパービジョン</p> <p>13 全体報告・総括会</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>全出席(学内・学外)が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業時、提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>授業時、提示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉援助技術現場実習 2 (旧社会福祉援助技術現場実習)	0 1	通 期	6 単 位	(前期) 上野谷 加代子
	0 2	通 期	6 単 位	(後期) 小野 達也
	0 3	通 期	6 単 位	大西 雅裕
	0 4	通 期	6 単 位	北野 誠一
	0 5	通 期	6 単 位	(前期) 小西 加保留
	0 6	通 期	6 単 位	(後期) 郭 麗月
	0 7	通 期	6 単 位	坂本 光哉
	0 8	通 期	6 単 位	坪山 孝
	0 9	通 期	6 単 位	松端 克文 安原 佳子 阪野 学
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 現場体験を通して社会福祉専門職(社会福祉士)として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。</p> <p>2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力・技術を習得する。</p> <p>3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた行動ができるようにする。</p> <p>4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。</p> <p>5 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1 実習オリエンテーション(社会福祉現場実習の概略を学ぶ)</p> <p>2 福祉施設・機関・団体研究(視聴覚学習、現場体験学習、見学実習)</p> <p>3 専門援助技術実技指導(事例研究・ロールプレイを含む)</p> <p>4 面接実技指導</p> <p>5 記録実技指導</p> <p>6 評価・効果測定実技指導</p> <p>7 配属実習</p> <p>8 実習先個別報告と評価</p> <p>9 業務分析</p> <p>10 事例研究・実習計画モデル作成</p> <p>11 実習記録に基づく実習総括レポートの作成</p> <p>12 個人スーパービジョン(自己覚知)及び集団スーパービジョン</p> <p>13 全体報告・総括会</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>全出席(学内・学外)が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業時、提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>授業時、提示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会福祉特講 (現代社会福祉事情研究)		通期	4単位	松端克文
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今日、社会福祉に従事する職員は約100万人におよぶ。そのうち「社会福祉士」資格所持者は1万4076人である。これから社会福祉の仕事に就こうとする者が取得しておくべき重要な国家資格である。ちなみに、98年度(第10回)の受験者数は1万2535人で合格者数3460人、合格率27.6%となっている。</p> <p>本講義では、福祉専門職として備えておくべき知識、技能、判断力などのうち、特に知識の習得に力点をおく。変革期にある社会福祉の法・制度、政策動向の把握を中心に、社会福祉の思想や歴史、理論の理解などを含め現代社会福祉事情の把握に努める。同時に、受講生が社会福祉士資格の取得のために必要な知識を習得できるようにすることを目標にする。</p> <p>なお、福祉各分野の事情に精通した学外講師(社会福祉士取得者)にも適宜分担していただく。社会福祉士国家試験受験予定の4回生はもちろんのこと、3回生からの受講を歓迎する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の動向分析 2. 社会福祉原論 3. 地域福祉論 4. 老人福祉論 5. 障害者福祉論 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 介護保険導入にむけての取り組みの現状と課題 7. 社会福祉援助技術(総論、各論Ⅰ、各論Ⅱ) 8. 児童福祉論 9. 社会保障論・公的扶助論 10. 心理学、社会学、法学、医学一般、介護概論 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、小テスト、後期テストなどで総合評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○厚生統計協会編『国民の福祉の動向』(厚生統計協会) ○厚生省編『厚生白書』(ぎょうせい) ○社会・介護福祉士受験ワークブック編集委員会編『社会福祉士受験ワークブック』上・下(中央法規) ○『社会福祉士国家試験解説集』(中央法規) ○『社会福祉士模擬問題集』(中央法規) ○『社会福祉士国家試験予想問題集』(誠信書房) 		
<p>[教科書]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉養成講座編集委員会編集『改訂 社会福祉養成講座 全15巻』中央法規 ○その他随時プリント資料配布 				

「社会学科基礎演習」について

社会学部教授会

1992年度より社会学部社会学科新入生を対象に開講されたこの「社会学科基礎演習」は、社会学部教員によって質疑応答可能な少人数クラスのゼミナール形式で運営される。そこでは、特定のテーマを選択し、それを研究するさまざまな方法や、その結果を報告したりレポート・論文に作成したりする基礎的な方法について指導を受けることになる。すなわち以下の4つの項目である。

①テーマの発見：

社会的現実への興味関心なくして社会学部の勉強はできない。
現実の中に問題を発見する方法がまず学ばねばならない。

②情報収集：特定テーマについて研究するのに必要な情報を探し収集する方法は、そのテーマに応じて多種多様である。情報源の種類は、単行本、雑誌、新聞などの活字メディアはもちろん、映像・音声メディアと多彩であり、さらには現場・現地における観察やインタビューや体験などもある。それらの情報を効率よく正確に探索し発見し入手する方法について学ぶ。

③情報解説：収集された多種多様な情報は解説され整理されねばならない。

たとえば本の読み方であり、新聞・雑誌の読み方である。あるいはテレビ・映画の見方であり、観察の仕方、体験の反省的検討の仕方である。それらの方法について学ぶ。

④口頭報告、討論、レポート・論文作成：

解説された情報は蓄積しておくだけではなく、表現され伝達されなければならない。

ゼミナールにおいて口頭で報告したり、討論し合ったり、さまざまなテーマについて小論文を書き添削指導を受けたり、また、年間を通じて特定テーマを選択し論文を書いたりすることを通して、研究発表の方法を学ぶ。

大学での4年間の学習において、また、卒業後の職業生活において必要なのは特定テーマについて情報を収集し・蓄積し、それらを解説・整理し、自分の問題関心や視点に基づいて再構成し、それを表現・伝達する力である。それは即席では身につかない。そこでこの基礎演習に参加して、その力を少しでもつけておくことが望ましい。ただし、開講される基礎演習の各クラス案内に書かれているように、取り上げられる具体的テーマや、指導において重点の置かれる項目にはかなりの違いがあるので、案内をよく読んで選択していただきたい。

科目名称	社会学科基礎演習
対 象	社会学部社会学科1回生
形 式	ゼミナール
定 員	30名

「社会学科基礎演習」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	頁
01 02	上田 修	現代社会の諸相を考える	219
03	軽部 恵子	大学での勉強方法を学ぶ	219
04	木下 栄二	「身の回り」の社会学	220
05	清水 由文	比較よりみた日本社会	220
06	鈴木 富久	人間形成と現代社会	221
07	竹内 真澄	世界の教科書とその歴史像	221
08	中村 秀之	メディアについて考える	222
09	西川 一廉	心理学から現代社会を考える	222
10	松村 昌廣	社会学的想像力の育成	223
11 12	森本 良男	時代を読み、考え、表現する	223

〔注意〕

- (1) ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とするが、予備登録（先着順受付）によって受講者の決定を行う。
- (2) どのクラスも出席を重視する。一定の成果を上げるためには、授業への継続的な出席が欠かせないからである。
- (3) 学則上、この科目は、社会学部社会学科教育科目のコース選択科目（4単位）に位置づけられている。
- (4) 募集は次の日程で実施する。

〈日 時〉 4月7日（水） 9：10～15：00

〈申込受付〉 学務課窓口

〈注〉曜日・時限、時間割コードについては、授業時間割表でよく確認すること。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	01 02	通 期 通 期	4 単位 4 単位	上 田 修
【演習概要・学習目標】	【演習計画】			
この演習の目的は、自ら考え、調べ、報告し、討論するという作業をおこなうことによって、学ぶことの楽しさを再発見することにある。すなわち、各自の問題関心にそって文献を調べ、資料を系統的に収集することで論点を導き出し、さらにそれにもとづいて報告をおこない、討論する楽しさを味わいながら研究能力の向上を図る。具体的対象は、各人の問題関心にまかせるが、採り上げられた問題……例えば、宗教、校則・いじめに典型される教育問題、家族の変容……が社会的にいかん説明できるのかを、演習計画に示したプロセスをとおして考える。	1 班の構成 ①最初に、各自の問題関心にもとづくグループ化(班構成)をおこなうとともに、②文献・資料の調査方法、③報告の仕方、レジュメの作成について説明する。 2 班別報告 若干の準備期間を設けた後、1によって構成した班から1度に1テーマづつ報告をうけ、小グループ(3~4グループ)に分かれて討論をおこなう。グループ別討論のあと、全員で各班の討論内容を確認する。 3 ディベート 班別の報告・討論が一巡した後、死刑廃止といったような是非の立場がはっきりと分かれるテーマをいくつか設定し、数人ずつに分かれ、パネルディスカッション形式でディベートをおこなう。(全員がパネルディスカッションに参加) 4 班別報告 ディベートの後、再び各自の問題関心によって班別構成を再編し(希望者のみ:最初の班構成でもよい)、班別報告の第2ラウンドをおこなう。この際、グループ討論は、第1ラウンドより規模を大きくしておこなう。これによって徐々にではあれ、多人数のなかでも発言できる力をつけていく。 5 レポートの提出 演習の最終段階において、報告・討論を踏まえたレポートの作成をおこなう。			
【成績評価の方法】	①出席、②報告内容、③討論への参加、④レポートを総合勘案しておこなう			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習 「大学での勉強方法を学ぶ」	03	通 期	4 単位	軽 部 恵 子
【演習概要・学習目標】	【演習計画】			
人間の知的活動は「聞く、話す、読む、書く」の4つに集約することができます。この演習では相手の話を正確に理解し、自分の意見を説得力をもって伝え、あらゆる角度から資料を読みこなし、自分の主張を論拠を示しながら筋道立てて書くという、大学での全ての勉強に必要な技術を学びます。受講生は高校までの勉強方法にとらわれず、自由な発想と旺盛な好奇心を持つことが求められます。受講生は主要新聞(朝日、読売、毎日、日経)のうちから少なくとも1紙を購読し、テレビのニュース番組を毎日見ること。また、必要に応じて月刊誌やニュース雑誌(『世界週報』、『タイム』、『ニューズウィーク』など)を読むこと。 演習の詳細は受講生の人数やニーズ、希望に依りますが、年間を通じて以下の項目を扱う予定です。教材には新聞やテレビのニュース、身近な社会問題、ドキュメンタリー番組など、受講生が親しみやすいものを数多く取り上げます。	<前期> 1. 聞く: わかりやすいノートの取り方を工夫しよう 2. 話す(1): 自由な発想法とディスカッションのルールを覚えよう 3. 話す(2): 上手なスピーチの方法を身につけよう 4. 図書館の使い方: 資料探しの名人になろう 5. 読む(1): 文章の内容を短時間で正確に把握しよう 6. 読む(2): 資料の内容を色々な角度から検討しよう 7. 書く(1): きちんとした文章を書けるようになる 8. 書く(2): 文章の構成や表現方法を工夫しよう 9. グループ・プロジェクト: 数人のグループで1つのテーマを研究し、授業の中で発表してもらいます。 <後期> 10. ディベート(1): 勝つディベートの戦略を立てよう 11. ディベート(2): 論理と証拠で相手を説得しよう 12. 論文の書き方(1): テーマの決め方・リサーチの方法を学ぼう 13. 論文の書き方(2): アウトラインの立て方・資料の読み方を学ぼう 14. 論文の書き方(3): 注の付け方・参考文献リストの作り方を学ぼう 15. 論文の書き方(4): 文章に磨きをかけよう 16. 個人発表: 受講生が個別にテーマを選んでリサーチし、授業の中で発表します。			
【成績評価の方法】	毎回授業に出席することは受講の大原則です。加えて、与えられた提出物(内容、期日の厳守)、受講マナー(遅刻・私語・携帯電話等の受信音は厳禁)、積極的な授業参加(発言・質問)、発表(内容、グループ・プロジェクトでの貢献度、自分の発表日に休まないこと)も評価の対象となります。各学期末にはレポート(400字詰め原稿用紙5枚程度)が課されます。これらを全てあわせて総合的に評価します。			
【教科書】	【参考文献】			
・澤田昭夫 『論文の書き方』 講談社学術文庫 1977年 ・河野哲也 『レポート・論文の書き方入門』(改訂版) 慶應義塾大学出版会 1998年 ・軽部恵子 『良いレポートを書くために』(授業で配布します)	宇野義方他 『短文・小論文の書き方』 有斐閣 1978年 江川純 『知的文章の書き方』 日本実業出版社 1996年 樹田隆史 『「考える力」をつける本』 三笠書房 1997年 同 『「考える力」をつける本2』 三笠書房 1997年 同 『「考える力」をつける本3』 三笠書房 1998年 小河原誠 『読み書きの技法』 ちくま書房 1996年 櫻井雅夫 『レポート・論文の書き方 上級』 慶應義塾大学出版会 1998年 立花隆 『「知」のソフトウェア』 講談社 1984年 中村明 『文章力をつける』 日経新聞社 1997年 成川豊彦 『改訂版 成川式 文章の書き方』 PHP研究所 1998年 西研、森下育彦 『「考える」ための小論文』 ちくま書房 1997年 古部延治 『論文・レポートの文章作法』 有斐閣 1992年 R. フィッシャーおよびW. ユーリー 『ハーバード流交渉術』 三笠書房 1990年 小野田博一 『論理的に話す方法』 日本実業出版社 1996年 土山信人 『ディベートで説得・交渉に強くなる本』 山下出版 1996年 永崎一則 『効果的な話し方』 経官書院 1996年 松本道広 『図解 ディベート入門』 中経出版 1997年			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	04	通 期	4 単位	木下 栄二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会とは何か？ 社会学とは何か？ そう考えるととても難しい問題のように思える。しかし、我々は誰もが社会の中で生きていて、我々がいて初めて社会も存在しうる。</p> <p>この演習では、我々の身の回りの様々な事象（親子喧嘩、恋愛、流行、大阪のお笑い、あるいは大阪人のマナーの悪さ、校則、いじめ、要するに何でもありだ）と社会全体との関わりを追求することで、社会学のイメージと社会学的思考法を学ぶことが課題である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>状況をみて調整するが、おおむね以下の通り。</p> <p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習を進めていくための予備的な講義 2. 各自の問題関心の明確化 3. 資料の探索、レジュメ作成の仕方についての講義（この段階でパソコンを利用する） <p><夏休みの課題：中間レポートの作成></p> <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 中間レポートの報告と討論 5. 年度末レポートの作成 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>中間レポート、年度末レポート、出席、討論内容等から総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	05	通 期	4 単位	清 水 由 文
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>われわれは、テレビ、新聞などのマスメディアをとおして、また実際に外国に行ったりして多くの国の社会や文化を知識としてもっている。そこで、本演習では、他の国との比較をとおして日本の社会や文化の特徴を明らかにしたいのである。本演習で基本的に、特定の社会や文化理解するために、①いかに情報を収集するか、②どういう点に問題をしばるか、③いかにまとめるか、④いかに発表するか（口頭や書くことにより）という作業をとおして把握するようにしたい。したがって、それらの方法を習得しながら授業を進めていく。そして、本からのみの情報だけでなくビデオやスライドもできるかぎり使っていきたい。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>〔前期〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 図書館での資料収集 ② インターネットによる資料収集 ③ ワープロの基礎的練習 ④ 報告レジュメの作り方 ⑤ 報告の仕方 <p>〔後期〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑥ グループでのテキスト報告 ⑦ レポートの書き方 ⑧ 各自のテーマで最終レポートの作成 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>①出席、②授業での報告、③最終レポートで総合評価する</p>	<p>[参考文献]</p> <p>随時提示する</p>			
<p>[教科書]</p> <p>授業時に提示する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習 人間形成と現代社会	06	通 期	4 単位	鈴木 富 久
【演習概要・学習目標】 人間はつねに時代の子であり、時代とともに、社会の変動につれて変容する。その変化をもっともよく写す鏡はいつも子供達である。次代を担う青少年の人格形成に果たす学校の役割は大きい。しかし、学校だけが教育機能を担っているのではない。家庭や地域社会も教育機能を果たし、さらにじつは社会環境全般がいつも最大の「教育者」なのである。こうした事柄は、社会学では「社会化」の問題として主題化されているが、いま日本の社会化機能全般が危機に陥り、深刻化している。 本ゼミは、各人がこの問題関心と視座から自己をみつめなおして自己形成の歩みをふりかえり、その家庭的社会的諸環境や時代背景の変動を考えることによって、新たな自己の発見と「社会」および「社会学」への開眼に誘うことをねらいとする。このため、青少年を主人公とする日本映画の名作を戦前から時代順に観ることにより、社会の変動と人間の変容を追体験することを共通の基盤にしながら、講義、討論、文献研究、感想文の執筆と交流、論文作成等を多面的におこなう。	【演習計画】 前期 1.『狼に育てられた子』読後討論。 2.映画「生まれてはみたけれど」(小津, 1932), 「一番美しく」(黒沢, 1944), 「わが青春に悔いなし」(黒沢, 1946), 「青い山脈」(今井, 1949)等を観て、戦前・戦中・戦後という時代の変化と人間を考える。 3.若干の文献研究と討論 後期 1.ビデオ「60年安保と岸信介」、映画「キューポラのある街」(浦山, 1962), 「非行少女」(同, 1963), 「私が棄てた女」(同, 1969), ビデオ「全共闘運動」、映画「学校」(山田, 1993), ビデオ「昭和史・激動の中で子供達は」、等を観て、昭和期、特に高度成長期から今日にいたる社会と人間、その変化の問題を考える。 2.学年末の総仕上げの論文作成に向け、テーマ別の班別編成をとってグループ討論をする。テーマには選択肢を設ける。			
【成績評価の方法】 出席点、レポート(論文および映画・読書の感想文)、討論およびゼミ活動全般への参加度等の総合評価。 *ゼミナールでは無断欠席は認められない。	【参考文献】 E・フロム『自由からの逃走』東京創元新社●リースマン『孤独な群衆』みすず書房●G・ジョーンズ, C・ウォーレス『若者はなぜ大人になれないのか: 家族・国家・シティズンシップ』新評論●城丸章夫『管理主義教育』新日本出版社●金田茂郎『子ども文化の復権』大月書店●教育科学研究会編『現代社会と教育』全6巻、大月書店●柴野・菊池・竹内編『教育社会学』有斐閣●中内・関・太田編『人間形成の全体史』大月書店●太田素子『江戸の親子』中公新書●山田和夫『日本映画101年』新日本出版社 *その他、授業中に多数紹介する。			
【教科書】 シング『狼に育てられた子』福村出版 深谷昌志『無気力化する子どもたち』日本放送出版協会 堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書 宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習 「世界の教科書とその歴史像」	07	通 期	4 単位	竹内 真 澄
【演習概要・学習目標】 スウェーデンや韓国等の社会・歴史教科書を検討する。二つの国の教科書を選んだのは、一方は北欧福祉国家という、日本と好対照な社会類型を知る上で都合がよいこと、また、韓国のそれは20世紀の日本がアジアからどう見られているかを知る上で便利だという理由による。 教科書は、一般に大人の世代が次世代に伝えたい知識を集約した本であり、背後に固有の価値観、歴史像をもっている。スウェーデンの場合、分権化の進んだコミュニティの仕組みを教えたいという気持ちが終始貫いているし、韓国の場合、独立を希求する韓国民衆の闘いの伝統に大きな熱意を込めている。前者は、現在の社会のあり方に誇りをもっているし、後者は帝国主義による侵略に抵抗してきた民族の伝統を自己の寄り所としている。 演習では、これら両国の教科書を素材に彼らが共有する歴史像を検討する。また余裕があれば、日本の教科書をめぐるホットな論争にも介入してみたい。	【演習計画】 まず最初に、参加者の関心がどこにあるのかをみきわめ、そのうえで、必要な課題別にグループ分けをおこなう。そして、通年で世界の教科書のテキストを分担し、毎回報告し、それをうけて全体で議論する。夏休みにレポートを課することがある。			
【成績評価の方法】 出席、報告、発言、レポート等により総合的に判断する。	【参考文献】 参考文献 新城俊昭『高等学校琉球・沖縄史』(沖縄県歴史教育研究会) 『民主主義』(啓書房) 小林よしのり『新ゴーマニズム宣言スペシャル 戦争論』(幻冬社)			
【教科書】 『あなた自身の社会 スウェーデンの中学教科書』(川上邦夫訳、新評論) 『よくわかる韓国の歴史』(明石書店)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	08	通 期	4 単位	中 村 秀 之
【演習概要・学習目標】 このゼミの目標は、メディアについて社会的に考えるための基礎訓練を行うことにあります。「社会的に考える」ということは、自分の「常識」を括弧に入れて身の回りの現象に向き合う、言い換えれば、「常識」に頼らないで異なる視点から物事を見るということにあります。 今年度は、「テレビ文化」を取り上げて、ふだんテレビとつきあっているときの「常識」とは異なる視点を設定し、そこからあらためてテレビについて問いかけることを目標としています。 前半では、過去においてテレビに関してどのような問題が論議されたか、つまり、人々はテレビについてどのように語ってきたか（考えてきたか）という様々な「言説」を検討していきます。 後半では、人々が現在、テレビについてどのように語っているのか（考えているのか）という「常識」そのものを対象として、それに対して各自があらためて問いかけることを試みましょう。	【演習計画】 (前期) 1 予備的な講義：大学で学ぶとはどういうことか/演習とは何か 資料の探し方/文献の読み方/報告の仕方/レポートの書き方 2 教科書の輪読：要約の報告/関連資料（文献、映像など）の調査/内容の吟味 3 1、2をふまえて各自の問題設定を行う。 4 3にもとづくレポート作成（夏期休暇中の課題）。 (後期) 5 4にもとづく個別報告。 6 5と並行して、3、4にもとづくグループ編成と 各グループの共同研究テーマの設定を行う。 7 グループ別報告。 8 年度末個別レポートの作成。 *状況に応じて適宜調整しながら進めて行く。			
【成績評価の方法】 出席、発言、報告、レポートを総合的に評価する。	【参考文献】 適宜指示する。			
【教科書】 初回授業で指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	09	通 期	4 単位	西 川 一 廉
【講義概要・学習目標】 いつの時代でも、多様な人間が集まる社会では、いろんなことが起こる。特に現代社会では、世紀末というにふさわしくさまざまなことが起こっている。新聞を広げれば、うれしいこと、悲しいこと、腹の立つこと、嘆かわしいこと、忌まわしいことなど山積している。たとえば、1人ではやらないような恥ずかしいことを、大勢だと思わずやってしまうのはなぜだろう。カレー事件後にあちこちで異物混入事件が頻発するのはなぜだろう、などと考え出すときりがない。当演習では心理学に軸足を置いて、人間心理という点から、現代社会の諸問題を考えてみようとするものである。 当演習には、心理学に関心のある人に応募してほしい。	【講義計画】 各自が関心をもつ現代社会の諸問題を持ち寄り、小グループに分かれて、トピックを決め、心理学的分析を試みる。そのために必要と思われる心理学文献を購読する。分析結果はレポートにまとめ、クラスで報告する。グループは数回、組み替える。したがって全員が報告の機会をもつ。			
【成績評価の方法】 出席、報告、討議への参加をもとに総合的に評価する。特に積極的な発言を重視する。	【参考文献】 随時、指示する。			
【教科書】 未定。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	10	通 期	4単位	松村昌廣
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この演習は大学で社会科学を専攻しようとする学生に自己啓発的な学習意欲を持たせ、学問的な方向付けをすることを目的とする。このため主として古典書を読ませながら、「人間生活と社会」について考察させ、現代社会の諸問題を初歩的に研究させる。</p> <p>1 導入 1) 大学の意義と大学生生活の仕方について 2) 社会学専攻の意義と当基礎演習の目的及び進め方について 3) 成績の評価方法(出席・報告討論・レポート)</p> <p>2 課題問題 1) 人間とは何か(人間観) 2) 人間社会とはどんな仕組みになっているのか(社会観) 3) 政治とはなにか(政治観) 4) 学問とは何をどうすることなのか(学問観)</p>	<p>[講義計画]</p> <p>3 課題</p> <p>1) カール・セーガン「コスモス」(朝日書店) 2) 時実利彦「心と脳の仕組み」(講談社学術文庫) 3) シューマン「国際政治」(東大出版会) 4) プラトン「国家」(岩波文庫) 5) アリストテレス「ニコマコス倫理学」(岩波文庫) 6) 「孔子・孟子」の孔子の部分(中央公論社「世界の名著」) 7) 同書、孟子の部分 8) 「老子・荘子」の老子の部分(同上) 9) 同書、荘子の部分 10) ホッブス「リバイアサン」(同上) 11) ルソー「社会契約論」(岩波文庫) 12) トゥクビル「アメリカの民主主義」(「世界の名著」) 13) 「ベンサム・ミリ」のベンサムノ部分(同上) 14) 同書、ミルの部分 15) マルクス・エンゲルス「ドイツ・イデオロギー」(岩波文庫)</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>1 出席 40% 2 レポート 60% (4点 X 15回)</p> <p>評価の目安</p> <p>80~100% A 70~79% B 60~69% C</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>各自、上記指定書を購入のこと。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科基礎演習	11 12	通 期 通 期	4単位 4単位	森 本 良 男
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>環境、高齢化、教育の荒廃、民族対立、宗教紛争や難民問題など、21世紀の世界と日本はどうなっていくのだろうか。こうした「時代の流れを読み、考え、表現する」ことで、社会的なものを見方を養ってほしい。</p> <p>その一歩として、みんなで新聞や本を読み、わいわい議論をしていく。そのあと各自がテーマを決め、必要な資料、情報を集めて分析し、発表し、文章にまとめる。その過程で、自分と社会、自分と世界がどのようにつながっているかを考えていきたい。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>(前期) ①新聞を毎日読んで、主要なできごとについてメモをとり、自分の意見を書き、発表し、みんなで議論する。 ②本の読み方、図書館の利用法などを調べ、それぞれ何冊かの本を読んで報告し、議論する。</p> <p>(後期) 各人が自分のテーマにしたがって、資料の収集、分析をやる。その結果を報告し、議論する。そのうえで、年度末に400字10枚以上のレポートにまとめて提出する。</p>			
<p>[成績評価の方法] 1、出席状況と授業への準備、授業中の報告、発言など平常の成績評価が50点満点。 2、年度末の400字10枚以上のレポートが50点満点。 以上合わせて最終評価を行なう。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教科書、参考文献とも追って指示する。</p>				

「社会学科文献演習」クラス一覧

クラス	担当者	頁	クラス	担当者	頁
01	大谷 信介	225	06	谷 富夫	227
02	大谷 信介	225	07	野々山 久也	227
03	捧 堅二	226	08	村上 公敏	228
04	清水 夏樹	226	09	藤森 勉	228
05	谷 富夫	227			

〔注意〕

- (1) ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とするが、予備登録（先着順受付）によって受講者の決定を行う。
- (2) どのクラスも出席を重視する。一定の成果を上げるためには、授業への継続的な出席が欠かせないからである。
- (3) 学則上、この科目は、社会学部教育科目のコース選択科目（4単位）に位置づけられている。
- (4) 募集は次の日程で実施する。
 〈日時〉 3月23日（火） 9：20～15：00
 〈申込受付〉 学務課窓口
 〈注〉曜日・時限、時間割コードについては、授業時間割表でよく確認すること。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	01	通 期	4単位	大 谷 信 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この演習では、日本におけるパーソナル・ネットワークに関する文献を素材として、論文の輪読とそれについての議論をゼミ形式でおこなう。またこの演習では、実証的な研究文献も対象とするので、クロス集計表の読み方、データ解析の手法についてもふれていく予定である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期は、主としてテキストの輪読と議論に当てる。 後期は、ネットワークに関する資料や論文のコピーをもとに、データ解析や実証研究の方法等について議論を展開していく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点とレポートによる総合評価</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>松本康編『21世紀の都市社会学 1巻 増殖するネットワーク』勁草書房 1995年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	02	通 期	4単位	大 谷 信 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この演習では、転職に関する社会学的研究の基本文献を素材として、論文の輪読とそれについての議論をゼミ形式でおこなう。またこの演習では、クロス集計表の読み方、データ解析の手法についてもふれていく予定である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期は、主としてテキストの輪読と議論に当てる。 後期は、転職に関する資料や論文のコピーをもとに、データ解析や実証研究の方法等について議論を展開していく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点とレポートによる総合評価</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>M. グラウグニャー(渡辺深訳)『転職～ネットワークとキャリアの研究』ミネルヴァ書房 1998年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	03	通 期	4 単位	捧 堅 二
【講義概要・学習目標】 ポスト冷戦時代の国際政治について考えるのが、この授業の目的です。ハンチントンの『文明の衝突』を読んでいきます。この本は冷戦後の世界を思考するうえでたいへん興味深い本です（言語や宗教についてもいろいろ教えてくれます）。湾岸戦争、旧ユーゴスラヴィア紛争、インド・パキスタンの核実験、ヨーロッパ統合も「文明の衝突」の理論で説明できなくはありません。これら事象についての理解を深めつつ、この理論についてみんなで検討したいと思います。	【講義計画】 前期 冷戦時代の国際政治について ハンチントンの理論の基本的構え 冷戦後の主要な地域紛争と『文明の衝突』 後期 冷戦後の主要な地域紛争と『文明の衝突』（つづき） アメリカの世界戦略とは何か クレア『冷戦後の米軍事戦略』			
【成績評価の方法】 出席 レポート 発表	【参考文献】 マイケル・クレア『冷戦後の米軍事戦略』かや書房、1998年			
【教科書】 サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社、1998年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	04	通 期	4 単位	清 水 夏 樹
【演習概要・学習目標】 サブカルチャーの社会学 社会一般の世俗化と青年世代の脱俗化の傾向をいよ、戦後日本のサブカルチャー動向をいよと通す試み。また今日の宗教ブームの底流と背景にも注目を向け、時代思潮のし目と画期点を願り、私たちの「戦後」といよ時代文化のいよかに考えてみたい。 とにかく探求意欲をもつて講義に臨んでほしい。ミーハー精神歓迎、ただし好奇心を一過性のものにとどめず、各自関心と興味を何らかの形あるものへと練りあげた努力を惜しまないように。したがってテキスト以外に、文学、思想、スポーツ、演劇、映画、流行ファッション等関連するジャンルの書物、雑誌をドンヨクに消化すること要求される。	【演習計画】 前期 習俗と流行現象をいよとする下位文化について、大衆社会の出現と大衆文化、活字・出版文化と電波メディア 中間項 大衆消費社会の到来と〈大衆〉〈小衆〉。若年層の神秘志向とオカルトブーム、近代合理主義への反動と世俗化の逆反。 後期 世相史と流行歌謡との照応—「前進」的解放基調と情緒的「回想」基調の交互サイクル、灌歌からポップス、フォーク、ニューミュージック等の流行の起伏を通じ、日本人の「過去」といよのかわり、向かい方を省察する。			
【成績評価の方法】 随時レポート、簡易テスト等(出席代替をいよみ)を課し、通常学習の段階で不適格の判定を受けいよに嚴重注意すること	【参考文献】 「遊ぶ社会学」井上 俊(世界思想社)ほか同社の世界思想ピクセル・シリーズ。「乗るいよ、個人主義の誕生」山崎正和(中公文庫)ほか			
【教科書】 「青年文化の聖・俗・遊」高橋勇悦・藤村正之編(恒星社出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	05 06	通 期 通 期	4単位 4単位	谷 富 夫
<p>【演習概要・学習目標】</p> <p>異質化・多元化する現代社会を、生活世界の内面から理解する方法として、「ライフ・ヒストリー法（生活史法）」の習熟をめざす。</p>	<p>【演習計画】</p> <p>授業の進め方は、第1回目の時間に指示する。</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>出席状況、授業態度、報告の質、学期末レポートの出来具合、等と総合的に評価する。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>授業で随時指示する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>谷 富夫 編 『ライフ・ヒストリーを学ぶ人のために』 (世界思想社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	07	通 期	4単位	野々山 久也
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>この文献演習は、教科書を用いて、本書の主題である「家族の内側」をシステム理論的アプローチによって理解しようとすることを目的としている。ホメオスタシスのメカニズムやフィードバックのメカニズム、それも単にネガティブ・フィードバックのみならず、ポジティブ・フィードバックのメカニズムを理解することは極めて難解である。</p> <p>しかし家族それ自体は、私たちにとって身近である。システム理論という分析手法によって家族の内側を理解することによって、むしろ難解なシステム理論を同時に学習できれば一挙両得である。</p>	<p>【講義計画】</p> <p>教科書の目次によって以下のように演習を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家族システムについての基礎的概念について 2 家族システムの境界維持について 3 空間・時間・エネルギーの次元について 4 閉鎖型・開放型・任意型の類型化について 5 4つの役割演技者のモデルについて 6 家族システムの全体像について 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>出席の重視は言うまでもないが、演習での報告や発表ならびに発言や意見の発表も重視する。</p> <p>また、定期的にレポートの提出も課す予定であるので、必ず提出するように。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>野々山、袖井、篠崎 (編) 『いま家族に何が起きているのか』ミネルヴァ書房、1993。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>カンター、レア 著 (野々山久也訳) 『家族の内側—家族システム理論入門—』 垣内出版、1985。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習 ア-2 アジアを考へる	08	通 期	4 単位	村 上 公 敏
[演習概要・学習目標] アジアは〜?では何のこと。それはそれぞれのアジアの個性とつがみとると、それ、アジアと他の世界との関係の概略をつかむ。その目標とする「アジアは何ぞ?」つまりヨーロッパ文化「アジア」を命という単一の向集区では何ともしない法則。	[演習計画] 前期 1 1回 南地帯の概観 後期 1回 想像と自己化 2 「南地帯の文化と環境」 2 3 「南地帯の文化と環境」 3 4 「南地帯の文化と環境」 4 5 「南地帯の文化と環境」 5 6 「南地帯の文化と環境」 6 7 「南地帯の文化と環境」 7 8 「南地帯の文化と環境」 8 9 「南地帯の文化と環境」 9 10 「南地帯の文化と環境」 10 11 「南地帯の文化と環境」 11 12 「南地帯の文化と環境」 12 13 「南地帯の文化と環境」 13 14 「南地帯の文化と環境」 14 15 「南地帯の文化と環境」 15 16 「南地帯の文化と環境」 16			
[成績評価の方法] 出席と発表を中心とする。試験はない。	[参考文献] 村上公敏著 東南アジアの文化 地域文化 京都大学 東南アジア研究所編 東南アジアの地理学			
[教科書] 長野勝, 山内晶生 編 現代アジアの文化と社会 (64019) 村上公敏 東南アジアの文化と社会 (64019) 長野勝, 山内晶生 編 現代アジアの文化と社会 (64019) 村上公敏 東南アジアの文化と社会 (64019)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学科文献演習	09	通 期	4 単位	藤 森 勉
[演習概要・学習目標] 近年、環境に関するさまざまな問題が大きく取り上げられている。それは、地球規模・国際規模といった大スケールのものから、国内や地域内といった小スケールのものまであり、問題の所在も多岐に及んでいる。従来から、環境と人間の関わり方を問題としてきた地理学にとっては、その実態を把握し解決の方法を見つけるべき努力は重要な課題である。 本演習では、さまざまな環境問題を取り上げながら、地理学の基本的なアプローチの仕方について理解させたい。	[演習計画] 新訂人文地理に掲載されている20編の論文から、各自関心の深いテーマを選んで解説させ、討論によって内容を深めさせる。			
[成績評価の方法] 授業中の発表・討論・小レポートをもって評価する。	[参考文献]			
[教科書] 末尾至行・橋本征治 新訂人文地理 大明堂発行				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義	01	通 期	4 単位	鈴木 富 久
【講義概要・学習目標】 社会学があつかう問題は、すでに各人の日常生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前期では、「人間とは何か」という問題の考察を出発点にして、行為・社会関係・社会構造・文化・社会規範・組織・集団・社会化・国家・市民社会、等々の社会学の基礎概念を講じ、併せて新旧の代表的社会学者達の諸理論の学習をしてもらう。後期では、歴史的現実の次元に移って世界システム論の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと議論を展開する。後期は、ビデオ学習を多用する。 全体の学習目標は、専門としての社会学の視野や方法論、基礎知識を学ぶと同時に、それを通じて、学問的な探究と思考のスタイルをも習得することにあるので、論文・その他のレポート執筆をたびたび課する予定である。 受講生の姿勢としては、毎日、新聞を読み、テレビニュースを観る習慣を身につけ、社会問題の特集番組等にも関心をはらって、自らの関心と問題意識を発展させるように努めることが大切である。	【講義計画】 【前期】 序. 社会学とは何か 第1部. 基礎概念 §1. 社会的存在としての人間 §2. 行為と文化・社会規範 §3. 組織と集団 §4. 「社会化」と国家 *併行して諸社会学理論の学習(『人間再生の社会学理論』各章の読書感想文提出。夏休み課題:自分で選択した一冊の古典・基本文献のブックレポート提出) 【後期】 第Ⅱ部. 世界社会学の視野と現代日本社会 §1. 世界システム論と受動的革命論 §2. 日本の近代化過程 §3. 戦後日本社会の展開(ビデオ学習) NHK「欧米人の見た日本の戦後」 ①戦火のあと, ②飛躍的復興, ③奇跡の高度成長, ④オイル・ショック NHK「戦後50年・あの時日本は」 ①60年安保と岸信介, ②三池争議 *それぞれの感想文提出 §4. 現代日本社会の構造的把握に向けて			
【成績評価の方法】 ①出席点、②前期・後期試験成績、③レポート成績(論文・読書感想文・ビデオ感想文等)、等を総合して評価する。(レポートの遅延提出は減点。)	【参考文献】 松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社 ウォルフレン『日本・権力構造の謎』(上・下)早川書房(文庫版あり) 渡辺治『「豊かな社会」日本の構造』労働旬報社 見田宗介『現代社会の理論—消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書 社会学の専門辞典は必需である。推薦:浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣。 その他、上記『社会学講義ノート』132～133頁参照。			
【教科書】 鈴木富久『社会学講義ノート』(私製) 小林・他『人間再生の社会学理論』創風社 宮本常一『忘れられた日本人』(岩波文庫)岩波書店				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義	11	通 期	4 単位	鈴木 富 久
【講義概要・学習目標】 社会学があつかう問題は、すでに各人の日常生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前期では、「人間とは何か」という問題の考察を出発点にして、行為・社会関係・社会構造・文化・社会規範・組織・集団・社会化・国家・市民社会、等々の社会学の基礎概念を講じ、併せて新旧の代表的社会学者達の諸理論の学習をしてもらう。後期では、歴史的現実の次元に移って世界システム論の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと議論を展開する。後期は、ビデオ学習を多用する。 全体の学習目標は、専門としての社会学の視野や方法論、基礎知識を学ぶと同時に、それを通じて、学問的な探究と思考のスタイルをも習得することにあるので、論文・その他のレポート執筆をたびたび課する予定である。 受講生の姿勢としては、毎日、新聞を読み、テレビニュースを観る習慣を身につけ、社会問題の特集番組等にも関心をはらって、自らの関心と問題意識を発展させるように努めることが大切である。	【講義計画】 【前期】 序. 社会学とは何か 第1部. 基礎概念 §1. 社会的存在としての人間 §2. 行為と文化・社会規範 §3. 組織と集団 §4. 「社会化」と国家 *併行して諸社会学理論の学習(『人間再生の社会学理論』各章の読書感想文提出。夏休み課題:自分で選択した一冊の古典・基本文献のブックレポート提出) 【後期】 第Ⅱ部. 世界社会学の視野と現代日本社会 §1. 世界システム論と受動的革命論 §2. 日本の近代化過程 §3. 戦後日本社会の展開(ビデオ学習) NHK「欧米人の見た日本の戦後」 ①戦火のあと, ②飛躍的復興, ③奇跡の高度成長, ④オイル・ショック NHK「戦後50年・あの時日本は」 ①60年安保と岸信介, ②三池争議 *それぞれの感想文提出 §4. 現代日本社会の構造的把握に向けて			
【成績評価の方法】 ①出席点、②前期・後期試験成績、③レポート成績(論文・読書感想文・ビデオ感想文等)、等を総合して評価する。(レポートの遅延提出は減点。)	【参考文献】 松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社 ウォルフレン『日本・権力構造の謎』(上・下)早川書房(文庫版あり) 渡辺治『「豊かな社会」日本の構造』労働旬報社 見田宗介『現代社会の理論—消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書 社会学の専門辞典は必需である。推薦:浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣。 その他、上記『社会学講義ノート』132～133頁参照。			
【教科書】 鈴木富久『社会学講義ノート』(私製) 小林・他『人間再生の社会学理論』創風社 宮本常一『忘れられた日本人』(岩波文庫)岩波書店				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義	12	通 期	4 単位	竹 内 真 澄
【講義概要・学習目標】 <p>私たちが生きる過程でどのような種類の「社会」に遭遇するか考えてみると、まず普通は家族（言葉）に出会う。そして友だち→買物（市場）→学校→会社（仕事）などという具合に、おおむね狭くて単純な関係から広くて複雑な関係へと広がっていく。だが、人間が社会と遭遇する時間的な順序は、現実における諸「社会」間の規定→被規定の論理的序列に対応していない。むしろ逆に、例えば、経験される最初の「社会」である家族は、後続の会社や学校（あるいは国際関係）によって強かに規定されているのである。経験にとって後から登場する遠隔化された「社会」のほうが、前に知った「社会」のあり方を制約＝決定している。身近な「社会」を遠隔化されたメカニズムとの関係で「再」経験するのが、社会学の面白さと言ってよい。講義ではこのことを不断に考慮しながら、原理的なテーマへ降りていくことと、ぎゅくに今日的なテーマへ昇っていくことを絡めていきたい。</p>	【講義計画】 <p>前期 まず、社会学的な発想に入門するために、大きな基礎的テーマとして、〈人間と社会との歴史的なつながり〉について考えることにしたい。とくに、人々が当たり前だと思っている行動様式がいかに歴史的、社会的に異なっているのかを具体的な事例から考える。社会学の一般的な図式、接近方法、概念を頭に入れる。これは、具体から抽象へ進む思考訓練である。</p> <p>後期 現代日本の社会問題の諸相を考える。社会学は結局のところ、なんらかのかたちで社会問題の解決のために役立つものであるし、またそうでなくてはならない。前期に、具体から抽象された諸概念を引き出したのと対照的に、後期は具体的な社会問題を単純な概念の総合として論理的に再構成し、診断をくだす。なぜ問題が生じるか、どうすれば問題を解決できるかをセットで考察する。</p>			
【成績評価の方法】 <p>出席、レポート、年度末試験の成績を中心に総合的に評価する</p>	【参考文献】 <p>参考文献 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫 ポール・ウィリス、熊沢誠訳『ハマータウンの野郎ども』ちくま文庫 大田昌秀『沖縄平和の礎』岩波新書 川人博『過労自殺』岩波新書 渡辺治『日本の大國化は何をめざすか』岩波ブックレット 東大社会科学研究所編『現代日本社会1』東大出版会 小倉千加子『セックス神話解体新書』学陽書房</p>			
【教科書】 <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学基礎講義	13	通 期	4 単位	中 村 秀 之
【講義概要・学習目標】 <p>社会学は人間と人間との関係性についての学問です。その関係性を、いかなる水準や領域に見て取るかによって、実に多様な対象を扱うことになります（「私」から「地球環境」まで、「ポケベル・ケータイ」から「世界システム」まで、さらには「社会学」そのものさえ!）。</p> <p>言い換えれば、どのような対象についてであれ、そこに、あるいはそれを通じて、今まで考えてもみなかった何らかの（人間と人間の）関係性に気づき、驚いたり不安になったり嬉しくなったりしたら、人はすでに「社会学する」ことを始めているわけです。</p> <p>この講義の主要な目的は、社会学の基礎知識を習得すると同時に、「関係性への気づき」の様々な具体例を知ることによって「気づき」のセンスを磨くことにもあります。</p>	【講義計画】 <p>〈前期〉 社会学の基礎概念について解説していきます。 主要な項目として、社会、文化、行為、規範、逸脱、制度、システム、イデオロギー、言説、権力、セクシュアリティ、ジェンダーなどを予定しています。</p> <p>〈後期〉 近現代日本の様々な文化現象——性、教育、メディア、消費など——について、それらを対象とした代表的な社会学的研究を紹介しつつ考察を加えていきます。</p>			
【成績評価の方法】 <p>前期末試験、小テスト、中間レポート、学年末試験などによって総合的に評価する。</p>	【参考文献】 <p>適宜指示します。</p>			
【教科書】 <p>適宜指示します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	11 12 13	通 期 通 期 通 期	4 単位 4 単位 4 単位	木下 栄二
<p>[講義概要・学習目標] 本講義では、観察法、アンケート法という二つの調査技法の実践を通して、主に数字の形で社会的現実を捉える調査法の修得を目標とする。講義では、まず社会調査の歴史、社会調査と社会理論の関係、社会調査の論理などを説明したのち、最も基礎的な調査技法である観察法について実習してもらうことになる。後期は、現在の社会調査の主流をなすアンケート法とその統計的解析の技法について実習してもらうことになる。実習の成果は、いずれもレポートとして提出してもらい、成績評価の重要な要素となる。</p> <p>本講義の特色は、前期・後期ともグループ作業による実習が授業の大半を占める点である。このため、出席および授業態度は極めて重要な成績評価の基準となることを受講生全員が肝に命じておいてもらいたい。</p>	<p>[講義計画] (1) 社会調査への招待(4～5月)： 社会調査とは何か、社会調査の歴史、社会調査と社会理論の関係、社会調査の論理などを説明する。やや退屈な講義となるかも知れないが、社会調査の実践および調査結果の正確な解釈のためにはとても重要なことなので、我慢して聞いてほしい。</p> <p>(2) 観察法の学習と実習(6～7月)： 社会調査のネタは我々の身の回りに幾らでもある。我々が五感で感じることを整理することが社会調査の第一歩である。そこで、前期は観察法という技法の学習と実習を行う。実習の成果は、夏休み前までにレポートとして提出してもらう。</p> <p>(3) 確率論の基礎知識の習得(9～10月)： 現在の社会調査の中心である統計的解析法の基礎である確率の初歩的な知識について説明する。</p> <p>(4) アンケート調査の学習と実習(11～12月)： 調査票の作成、データの収集、データの解析等についての学習と実習を通して、アンケート調査法および統計的解析法を学ぶ。実習の成果は、冬休み前までにレポートとして提出してもらう。</p>			
<p>[成績評価の方法] 前期レポート、後期レポート、後期試験の3つが、それぞれ同じウェイトで成績評価の対象となる。そのほかに出席点、自由課題レポート点なども加算して総合点で判断する。詳細は最初の授業にて説明する。</p>	<p>[参考文献] S・ウェッブ、B・ウェッブ(川喜多訳)『社会調査の方法』東京大学出版会 G・イーストホープ(川合・霜野訳)『社会調査方法史』慶応通信 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書 安田三郎・原純輔『社会調査ハンドブック』有斐閣双書 P・G・ホーエル(浅井・村上訳)『初等統計学』培風館</p>			
<p>[教科書] 原純輔・海野道郎『社会調査演習』東京大学出版会</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会調査	14 15	通 期 通 期	4 単位 4 単位	竹中英紀
<p>[講義概要・学習目標] 新聞やテレビのニュースを見ると、「これこれの意見を持つ人が何パーセント」というふうには、しばしば社会調査の結果が報じられている。あのデータは、いったいどのようにして作り出されているのだろうか。なぜ、ごくわずかな人たちだけを対象にして、全体の傾向を推測することができるのだろうか。</p> <p>社会学にとって社会調査は、データ収集の基本的な方法として位置づけられる。社会調査が正確で信頼に足るものであるためには、調査票の設計、標本抽出、調査の実施、データの集計、分析・解釈の各段階において、確立されている技法に厳密にしたがわなければならない。</p> <p>この授業では、社会調査の意義と基本的な技法について解説し、あわせてグループ単位・個人単位でのかんたんな作業実習を体験してもらう予定である。</p>	<p>[講義計画] 原則としてテキストの内容に沿って授業を行なう。前期・後期それぞれのポイントは以下のとおりである。</p> <p>(前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の意義と基本的な考え方 ・問題意識と仮説(独立変数、従属変数) ・調査の企画と質問文の作成 <p>(後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンプリングの方法 ・データの整理とチェック ・単純集計とクロス集計 			
<p>[成績評価の方法] 筆記試験の結果と出席状況を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献] いわゆる「アンケート調査」を中心とするこの授業では十分に触れられない隣接分野の参考文献として、次の3点を紹介しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田代菊雄編『新版 大学生のための研究の進め方・まとめ方』大学教育出版 ・佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社 ・東京大学教養学部統計学教室編『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会 			
<p>[教科書] 森岡清志編『ガイドブック社会調査』日本評論社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学原論		通 期	4 単位	宮 本 孝 二
【講義概要・学習目標】 社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を、体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性とは何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析や、社会学史に登場する多様な社会理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。 したがって、社会学原論は社会学史と内容的に大きく重なる。しかし、社会学史のように時系列的に多様な社会理論を紹介し発展の軌跡を描くのではなく、設定された一般理論的問題に現時点でどうかかわるかという視点からそれらを取り上げる。 また、社会を一般的に問うことは、社会を全体的に問うことに接続していかざるをえず、マクロな変動論を媒介として社会学原論と現代社会論が統一的に把握されることになる。本年度は現代社会論が閉講となるので、社会学原論ではこの視点に基づいて現代社会論の要点についても紹介することにした。	【講義計画】 1 社会学原論とは何か 2 社会学原論の形成：ギデンズの場合 3 多様な社会理論家たち：ギデンズが取り上げている人々 4 相互行為の4つの側面①コミュニケーション 5 相互行為の4つの側面②サンクション 6 相互行為の4つの側面③エクステンション 7 相互行為の4つの側面④コンフリクト 8 構造と内容規定と相互行為との関連づけ 9 構造という視点：構造機能主義と構造主義 10 場と全体にかかわる論点 11 中心概念としてのパワー 12 パワー論、運動論、国家論 13 変動論と現代社会論 14 現代社会の諸トレンド 15 社会生活の基本的な場と原論的問題			
【成績評価の方法】 原則として後期試験によってのみ評価する。ただし、授業内に実施するまとめのテストと、自由提出のレポート（講義内容に関して自分で調べて書くものなど）によって若干加点する。	【参考文献】 その都度指定する。			
【教科書】 宮本孝二『ギデンズの社会理論』（1998年、八千代出版） 現代イギリスの、というよりは現代世界の代表的社会学者アンソニー・ギデンズの世界社会論の全体像をまとめ、社会学原論と現代社会論の可能性を探究している。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学史		通 期	4 単位	竹 内 真 澄
【講義概要・学習目標】 男であるが女の心がわかる人（あるいはその逆）。北側の人間だが南の声を聴ける人。戦争（それは軍事的であるとは限らない）を戦いながら平和を想像できる人。20世紀人だが、18、9世紀の可能性が分かる人。こういうタイプの人間は、謎めいた、最も魅力的な資質をもつ人だと言ってよい（そうなれるとは限らないが）。20世紀とは何であったかというのは退屈で大きすぎる問いだが、その問いを家族、性、学校、世界システム、情報化、消費化などの場面に置き換え、20世紀後半に初めて登場した私達の表層生活の具体的な場で問い直すことはようやく可能にもなり、また、避け難くもなっている。現代社会学者たちはこれらをどこまでうまく語ってきたのだろうか。前期は20世紀後半史の文脈でこれらを検証してみよう。 そのうえで、後期には、これらの表層を根元から貫いて来る<近代>を18（スミス）、19（マルクス）、20世紀（ウェーバー）の発見の蓄積の中で見つめたい。貧しい還元は極力避けたいが、所詮、21世紀へ向かっての道の選択は、彼ら3人が差し込んだ社会理論の問いかけを今日的に再検討することに等しい。前期のかなり強引な入口が後期の出口と符合すれば、話は円環し、拍手喝采というところだ。	【講義計画】 <前期> 私たちの生活にとって最も身近な社会領域である、家族、性、学校、会社、国家、コミュニケーション、世界社会、日本人といった現代的な問題領域を一つ一つ取り上げて、その領域をめぐる社会学者たちの対抗を比較史的に考察する。ここではエンゲルス、フェミニズム、ドーア、バーソンズ、ミード、デュルケイム、ハーバーマス、ウーラーステイン、戦後日本社会科学等を扱う予定である。前期の結論は、これらの身近な問題領域が結局のところすべて<近代>という巨大な深層によって押え込まれ、そこから派生してきた表層であるということである。 <後期> 前期に見た成果を踏まえると、問題の根源は<近代>とはいったい何かということへ絞り込まれていった。ところで、<近代>に対する社会認識は18世紀以降三つの立場に分化していく。三つの立場を基礎的に、A・スミス、K・マルクス、M・ウェーバーによって代表させることができる。これら三者の社会理論を私たちが今日的にどう受け止めるかに課題が存在する点を後期の中間総括とする。最後に、前期に扱った表層の現実と直接つながる問題構成が世界戦争論（レーニン）と社会心理学（フロム）にあることに触れ、年間の円環は閉じられる。			
【成績評価の方法】 成績評価の方法 年度末試験によって評価するが、授業の進行をみてレポートを課す場合は、両者を総合して評価する。	【参考文献】 J・ハーバーマス『コミュニケーション的行為の理論 上中下』未来社 T・バーソンズ『社会的行為の構造』木鐸社			
【教科書】 伊藤、大関、小林、鈴木、竹内著『人間再生の社会理論』（創風社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会心理学		通 期	4 単位	沼 田 健 哉
<p>【講義概要・学習目標】 本講義は、社会心理学について、概観的に学ぶ。参考文献も参照しつつ、社会心理学について、概観的に学ぶ。学習目標は、超現代科学としての社会心理学の理論を身につけ、社会心理学の発展における現代社会の分析が可能となり、かつ、現代の社会心理学の持つ問題点をも、認識できるようにすることにある。</p>	<p>【講義計画】 本講義の内容は、以下の順に講義する。 1. 社会心理学：課題・歴史・研究方法 2. 自己 3. 社会的認知 4. 態度 5. 対人思考 6. 対人コミュニケーション 7. 社会的影響力</p>	<p>8. 人助け行動と人助け 9. 集団過程 10. パーソナリティと役割 11. 環境 12. 世論と投票行動 13. 文化 14. 青年の社会</p>		
<p>【成績評価の方法】 年度末の試験による。</p>		<p>【参考文献】 船津衛『ミット自我論の研究』小泉書店 安藤清志・大塚有次・池田謙一 『社会心理学』岩波書店 永田良昭・船津衛『社会心理学の発展』北極出版 広瀬幸雄『環境と消費の社会心理学』名古屋大学出版会 A.R. リンクスミス他『社会心理学』シンボリック 『相互作用論の発展』小泉書店 Kenneth J. Gergen, 杉野俊夫他監訳『社会心理学』カニシヤ出版</p>		
<p>【教科書】 白木堅三四郎編『社会心理学への招待』ミネルヴァ書房。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
家族社会学		通 期	4 単位	菰 渕 緑
<p>【講義概要・学習目標】 家族はこれまで社会の基礎単位として位置づけられてきたが、現代社会ではその家族の存在が改めて問われている。本稿では家族の変遷を歴史的な流れの中で把握し、社会と家族との関連を考える。また家族の非典型的形態を見ることによって、逆に家族の存在理由を問う。さらに急激な変化を経験した家族の姿を通して、家族の多様性という視点から現代家族が抱える諸問題を分析していく。 なお、家族をよりよく理解するために、背景としての社会についての考察を適宜取り入れていく。</p>	<p>【講義計画】 1. 家族の本質—家族とは何か 2. 非典型的家族の存在に見る家族のあり方 3. 家族と文化 4. 家族の構造と機能 5. 家族の変遷 6. 家族における社会化とパーソナリティ 7. 家族の内部構造—勢力構造と役割構造 8. 諸外国における家族の実態 9. 家族の将来像—家族政策および家族福祉の視点から</p>			
<p>【成績評価の方法】 筆記試験によって評価する</p>		<p>【参考文献】 森岡清美・望月 嵩共著『新しい家族社会学（四訂版）』 培風館</p>		
<p>【教科書】</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
都市社会学		通 期	4 単位	大 谷 信 介
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>都市社会学の困難さは、それが対象とする<都市>を定義すること自体が難しいことに起因している。しかし、人間は日常生活のなかで、なんとなくではあるが<都市的なるもの>（たとえば「都会」-「田舎」という言葉に含まれる意味内容に象徴されるもの）の存在を実感していることも確かな事実である。「この各個人が<都市的>と実感している特徴や特性=<都市的なるもの>本質は、いったい何なのだろうか？」この講義では、これまでの都市社会学が追及してきた中心的テーマである上記の疑問を、都市住民のパーソナル・ネットワークの実証分析を通して実際に解明していくことを目標としている。また講義の中では、世界の都市社会学の研究動向、日本都市社会学研究の問題点を整理するとともに、最近注目を集めているネットワーク研究の動向についても整理検討していく予定である。</p>		<p>[講義計画]</p> <p><前期> 1 Introduction(この講義の目的・内容について) 2 都市とは？ 3 都市の定義に関する諸説 4 都市社会学の研究主題 5 シカゴ学派と新都市社会学 6 シカゴでなぜ都市社会学が発展したか？ 7 人間生態学の議論（パーク） 8 アーバンイズム論（ワース） 9 下位文化理論（フィッシャー） 10 アメリカの都市と日本の都市 11 現代都市社会と個人主義・人間関係 12 欧米におけるパーソナルネットワーク研究の系譜 13 ソーシャルネットワーク論の展開</p> <p><後期> 1 村落・家族社会学における社会関係研究 2 都市社会学研究における生活構造論 3 日本の人間関係研究の特徴と問題点 4 ネットワーク論の先駆的調査研究 5 パーソナルネットワーク測定方法の問題点 6 日本都市住民のインサイド・ネットワーク 7 パーソナルネットワーク構成の日米比較 8 個人的諸属性とネットワーク 9 都市化はパーソナルネットワークがどのような影響を与えるか 10 都市的ネットワークの特徴 11 大都市大学生と地方都市大学生の友人ネットワークの相違 12 ネットワークの異質性と都市の文化創造性 13 くまざりあいの社会学</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験および平常の提出物等を総合評価する</p>		<p>[参考文献]</p> <p>C.S.フィッシャー『都市的体験』未来社 1997年 松本康編『21世紀の都市社会学 1巻 増殖するネットワーク』勁草書房 1995年 鈴木広編『現代都市を解読する』ミネルヴァ書房 1992年 奥田道大編訳『都市の理論のために』多賀出版 1983年 鈴木広編『都市化の社会学』誠信書房 1965年</p>		
<p>[教科書]</p> <p>大谷信介『現代都市住民のパーソナル・ネットワーク』ミネルヴァ書房 1995年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文化社会学		通 期	4 単位	北 川 紀 男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>文化は人間にとって第二の本能であるといわれるほど、人間と文化は不可分の関係にある。それ故に、人間の社会を研究する社会学にとって、文化の研究は欠くことのできない研究課題である。従って、まず人間と文化との間に存在する根源的な関係に立ち戻って、文化の概念を尋ね、次いで、文化は社会によって制約されると同時に社会を制約するという、すぐれて社会的象徴であることを明らかにする。「歌は世につれ、世は歌につれ」とか「処変われば、品変わる」とは、文化と社会の関係を巧くいいて、社会学的にみて興味ある表現である。</p> <p>以上の基礎的な考察を踏まえて、後期は、複雑多岐に分化し、目まぐるしく変転する現代分化の動向を解明するために、「大衆化」、「国際化」、「情報化」、「高齢化」の視点にたつて、批判的に考察をすすめてみたい。</p> <p>現代文化は、複雑かつ激しく変転しており、人びとはともすれば無批判的に追従しがちであるが、この講義を通じて、現代文化を理解する自らの視座を学びとって欲しい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p><前 期> ①イントロダクション ⑥生活文化 ②社会学における認識問題 ⑦意味象としての文化 ③社会学における文化研究 ⑧文化と文明 ④文化の概念 ⑤文化と社会規範</p> <p><後 期> ①知識の社会学 ⑥文化変動と社会変動 ②文化の大衆化 ③国際化と文化 ④情報化と文化 ⑤高齢化と文化</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績評価は、夏期休暇中の課題として課すレポートと学年末試験に基づいておこなう。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>参考文献については、4月の2回目の講義の際に「文化社会学参考文献リスト」として配布するので必ず受け取ること。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>北川 紀男『文化社会学研究』（八千代出版）（予定）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文化人類学	01	通 期	4 単位	小 池 誠
【講義概要・学習目標】 文化人類学は、自分たちとは異なる文化を調査・研究し、この世界に住む様々な人々の文化的多様性を明らかにしてきた。この授業では、文化人類学独自のアプローチと方法論を通して異なる文化と社会にたいする理解を深めることを目的とする。様々な民族の多様性をみていきたい。私たちの常識とはまったく異なる習慣や社会のあり方をたんに珍しいものとか遅れたいもの文化人類学ではなく、それぞれに独自の価値を見いだす国際政治のなかで大きな話題となっている国家と民族の関係についても、より身近な問題として考えてもらいたい。受講者の関心と理解を深めるために、できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を利用する予定である。	【講義計画】 (前期) 1 文化人類学とは何か？ 2 人類の文化と言語（文化とは何か，人類の言語はどんな役割をもつのか？） 3 家族と結婚の多様性（私たちにとって家族とは，結婚とは何か？ そして異文化では） (後期) 1 政治と経済（どうやって人は力をもつか，交換はどんな意味をもつのか？） 2 国家と民族（民族とは何か，なぜ民族は憎しみあうようになるのか？） 3 宗教と儀礼（人は何を信じ，何を願うのか？）			
【成績評価の方法】 年度末試験の成績を基本にして評価する。ただし，出席状況，および夏休みの課題レポートと必要に応じて提出を求める小レポートの成績も加味する。	【参考文献】 講義のなかで必要に応じて紹介する。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
宗教社会学		通 期	4 単位	沼 田 健 哉
【講義概要・学習目標】 宗教社会学の古典的理論を学び、最近の理論の内容について学ぶことを主たる目標とする。それ以外に、世界の主要な宗教を学ぶ。その中で、宗教を含む日本の宗教の宗教社会学的分析の特性を学ぶ。	【講義計画】 前其月は、教科書を参照しつつ、宗教社会学の立場を学ぶ。ウェーバー、デュルケム、ジンメル等の学説を中心とし、それ以外の宗教社会学理論についても若干言及する。 後其月は、キリスト教、仏教、イスラム教、ニューエイジ（新霊性運動）、新宗教、新新宗教の宗教社会学的分析と、宗教社会学の新しい理論の内容を併行して講義する。			
【成績評価の方法】 主として年度末試験による。ただし、レポートも参照する。	【参考文献】 小笠原真『二十世紀の宗教社会学』世界思想社 沼田健哉『宗教と科学のネオパラダイム』新新宗教を中心として一創元社 R. ロバートソン著、田丸徳善監訳『宗教の社会学』川島書店 J. M. インカーン著、山本浩一監訳『宗教社会学』創元社 マックス・ウェーバー、大塚久雄・生松尚友三訳『宗教社会学論選』みすず書房 マックス・ウェーバー 訳註 一橋大学『宗教社会学』創元社			
【教科書】 井上真孝編『現代日本の宗教社会学』世界思想社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教 育 社 会 学		通 期	4 単位	宮 崎 和 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>教育社会学は、教育と社会の関係を社会学の方法で研究する科学である。教育の問題は、今や学校のみならず家庭や地域社会など広範囲で大きな社会問題になっていることが多い。</p> <p>本講義では、現代社会の特質からくる教育の諸問題を積極的に取り扱う。たとえば、学歴社会問題、受験戦争問題、家庭や地域社会の教育力の低下問題等と非行や逸脱行為、少年犯罪との関連、いじめや不登校問題、若者文化と流行、マンガ文化やTV文化の教育への影響問題などいろいろな教育問題と学校組織の構造的な問題点との関連を具体的多面的に考察する。</p> <p>その中で、教育と現代社会の特質との関連を分析する社会学的視点を論究するとともに、現代教育が抱えている諸問題を実証科学的に分析し考察する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の特質と教育 2. 情報化社会と教育 3. 国際化社会と教育 4. 少子高齢社会と教育 5. 学歴社会と教育 6. 管理社会と教育 7. 学習社会と生涯教育 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 人権問題と教育 9. 学力保障と教育機会 10. ジェンダーと教育 11. 社会階層と教育 12. 学校の官僚制と教師集団 13. 社会変動と教育改革 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績と年間数回提出してもらったレポートなどを総合して評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宮崎和夫（編著）「生徒指導の理論と実践」（学文社） 2. 宮崎和夫（編著）「現代教育原理」（創森社） 3. 麻生 誠他著「学校の社会学」（学文社） 		
<p>[教科書]</p> <p>宮崎和夫（編著）「社会と教育への視点」（創森社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社 会 病 理 学		通 期	4 単位	菰 渕 緑
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会病理学は、社会に生じている解決困難な諸問題を分析するための学問の一つである。社会的な諸問題が生じてくる原因、過程、結果などを理論的に究明し、解決へ向けての方向性を探ることを目的としている。本講では社会病理学の発達過程をその社会的背景の解明とともに論じ、さらに代表的な社会病理学理論を新しい視点から見直す。そして改めて社会病理とは何か、病理判定の基準とは、という基本的な問題を検討していく。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会病理学とは何か 2. 社会病理学の分野 3. 社会病理学研究の系譜 ヨーロッパにおける社会病理学研究 アメリカにおける社会病理学研究 日本における社会病理学研究 4. 社会病理学の諸理論 社会不適応論、疎外論、文化遅滞論、社会解体論、アノミー論 逸脱行動論、ラベリング論など 5. 社会病理の判定基準 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>筆記試験によって評価する</p>		<p>[参考文献]</p> <p>望月 嵩編著『新社会病理学』学文社</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較社会論 (旧社会学特講－比較社会論)		通 期	4 単位	清 水 由 文
【講義概要・学習目標】 <p>われわれは、現代社会において、ある1つの社会現象を比較することにより、明確にその現象を捉えることができることを知っている。したがって、比較の視点は時間の視点と同じく社会学の主要な方法の1つである。しかし、その比較対象にはあらゆるものが含まれるのであるが、本講義では社会構造を対象を限定しておきたい。まず、一番資本主義化の早かったイギリスの社会構造を取り上げ、つぎにその隣国で、長く植民地であったアイルランドの社会構造をとりあげる。さらに東南アジアからタイの社会構造をとりあげたい。そして、それらの社会構造と日本の社会構造との同一性と異質性を検討するという作業により比較社会論を展開してみたい。できるかぎり、ビデオをとおして視覚的にも各国の社会構造を理解できるようにしたい。</p>	【講義計画】 <p>(前期) 1. 比較社会論の方法 2. イギリスの社会構造 3. アイルランドの社会構造</p> <p>(後期) 1. タイの社会構造 2. 日本の社会構造との比較</p>			
【成績評価の方法】 <p>年度末の試験結果、年間2回のレポート、講義中の小レポートにより総合的に評価する。</p>	【参考文献】 <p>適宜提示する。</p>			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業社会学		通 期	4 単位	上 田 修
【講義概要・学習目標】 <p>いわゆるバブル経済の崩壊とともに、金融業を中心として日本企業に対する評価が著しく低下した。金融不安はいうまでもなく、リストラ、企業倒産による失業者の増大、さらに能力主義の深化・徹底化は、かつて日本的と称された制度、特徴に対する信頼を揺るがせ、評価の大幅な低下にも結びついている。しかし、戦後の時期に限っても、日本企業における雇用・人事管理をはじめとする様々な特徴・特質に対する評価は、時期によって大きく変わってきた。この点を念頭におき、この授業では、日本の企業がいかなる特徴を帯びているのかをアメリカ、ヨーロッパの企業と比較しながら検討するとともに、いかに変化してきたのかを明らかにする。同時に、これらの日本の特質とされる事柄が働く人々の生活や社会関係にどのような問題を投げかけているのかを考察する。</p>	【講義計画】 <p>I 総論 1 日本企業をめぐる評価とその変遷 2 日本人的特質と実態</p> <p>II 各論 1 労務管理：年功制から能力主義へ 2 人事管理：伝統的管理と能力主義 3 雇用管理：終身雇用の動揺と多様化する雇用 4 女性労働の増大：均等法と女性の労働世界 5 賃金：平等と格差 6 労働組合：企業別組合と組合離れ 7 労使関係：労使関係の安定と動揺 8 企業社会：企業中心社会の功罪</p>			
【成績評価の方法】 <p>前期末試験ならびに学年末試験の成績で評価する。配点は前期末 50点、学年末 50 点の計 100 点。</p>	【参考文献】 <p>各パートに入るとき文献リストを配布する。</p>			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業心理学		通 期	4 単位	西川 一廉
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>いま産業社会は大きく変わりつつある。そこで働く人々は何を目的に働くのか。何を喜びとして働くのか。好むと好まざるとにかかわらず、勤労者の生活は職場(会社)を中心に営まれる。そこで起こるさまざまな出来事は、働く人々とその家族に大きく影響する。</p> <p>ソフト化・サービス化、情報化、コンピュータ化、共働き化、高齢化する社会の中での仕事、職場の人間関係、技術革新と能力開発、人事制度と処遇、雇用環境と中高年問題、職場のストレスとメンタルヘルス等々、職場生活は多様な問題を内包している。人はこうした会社組織の中でどのように生きようとしているのか。たとえば会社=社会と考える人もいれば、会社は社会の1部にすぎないと考える人もいる。さらに女性の労働力化が進む中で、仕事と家族のバランスはどのようにとられるのか。高齢化が進む中で、職場環境はどのように改善されなければならないのか。</p> <p>当講義では、このようにダイナミックに変化する労働環境下での働く人々について、心理学の立場から考える。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I. 前期 勤労者の生きがい、働く意欲、職場のメンタルヘルス、仕事と家族など、具体的資料を使って主として勤労意識とその変化について考える。</p> <p>II. 後期 コンピュータ化、情報化、産業安全と事故防止、人事管理と能力開発、職場の人間関係、リーダーシップなど、主として労働環境と働く人々との相互作用について考える。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績の評価は期末試験による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>NIP研究会(編) 1995 『現代ライフ・スタイルの分析』 信山社</p>			
<p>[教科書]</p> <p>NIP研究会(編) 1997 『21世紀の産業心理学』 福村出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会政策総論		通 期	4 単位	小 川 登
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会政策の基本と戦後日本の社会政策について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、現代社会政策の展開と分析視角 2、資本主義の生成期・産業資本主義段階と社会政策 3、独占資本主義段階と社会政策の発展 4、労働組合政策と労使関係 5、賃金政策と所得分配 6、労働市場政策(とくに雇用調整について) 7、社会保障政策の展開 8、労働者保護政策 9、高齢化社会と労働・社会問題 10、技術革新と労働問題 11、女性労働の問題点 12、ホワイトカラー労働と社会政策 13、現代日本の社会政策の展開と背景 	<p>[講義計画]</p> <p>(前期)教科書の1～7について</p> <p>(後期)教科書の8～13について</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業の中で指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>石畑良太郎・佐野 稔(編)『現代の社会政策(第3版)』(有斐閣)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学特講 (社会学のネオ・パラダイム)		通 期	4 単位	沼 田 健 哉
【講義概要・学習目標】 社会学の既存の理論に関して言及し、その内容を学んだ後に、その理論の持つ文化的制約性、さらには論理の不整合性に関して考察し、しつら後は、新たな社会学理論に関する考察を展開する。		【講義計画】 前期においては、主として、教科書 さらびに参考文献を中核とする文献によりつ講義をする。 後期中は、よりオリジナルな社会学理論の内容を講義するよう試みる。		
【成績評価の方法】 主として年度末試験による。なお、レポートも参照する。		【参考文献】 アンソニー・ギデンズ『社会学理論と現代社会学』青木書店 今田高俊『自己組織化の創生』創文社 藤山和夫『制度論の種』創文社 厚東洋輔『社会学認識と想像』九人プレス社 橋爪大三郎『社会学と社会学の動向』青木書店 井上俊他編『現代社会学の主要論』岩波書店 丸山圭三『バック地「再帰的近代化」而立書』岩波書店 高坂健次、厚東洋輔編『講座社会学Ⅰ、理論と方法』東京大学出版会 I. W. オールステイン『既=社会科学の限界』岩波書店 ニクラス・ルマン『権威の脱却』社会学システム理論の下の恒星社学生館		
【教科書】 今田高俊『モダンの脱構築—産業社会のかたむき』中公新書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コミュニケーション論		通 期	4 単位	西 川 一 廉
【講義概要・学習目標】 人間は一人では生きてゆけない。複数の人が寄り合ってさまざまな集団、社会を構成し、その中で生きている。人間とはまさに「人と人の関係」の中に生きる存在である。そこで人と人をつなぐもの、それがコミュニケーションである。しかしコミュニケーションについて考えるには、他者より先に、まず自分が自分をどのように認知しているかである。その上で、他者との関係が浮上する。またコミュニケーションはことばに限らない。「目は口ほどに物をいい」といわれるが、身ぶり、手振りから始まって顔面表情など、いわゆるノンバーバル・コミュニケーションの方がよく用いられる。さらに話すこともさることながら、聴くことの重要性を知らなければならない。 当講義では、個人と、個人から小集団までの対人コミュニケーションについて、心理学の立場から考える。したがって当講義は心理学的コミュニケーション論である。		【講義計画】 I. 前期 自己概念と自己開示、対人相互作用や対人魅力、印象形成など、日常の具体的な出来事を取り上げながら、あるいは実習をまじえながら、コミュニケーションの基本について考える。 II. 後期 パーバル/ノンバーバル・コミュニケーションや態度変容（説得）、あるいは小集団における人間関係のダイナミクスなどについて考える		
【成績評価の方法】 成績評価は期末試験による。		【参考文献】		
【教科書】 J. B. ベンジャミン (著) 『コミュニケーション』 (二瓶社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
マス・コミュニケーション論Ⅰ		通 期	4 単位	中 村 秀 之
【講義概要・学習目標】 マス・コミ論の入門講義です。前期はマス・コミ研究への導入とマス・メディアの歴史、後期はその現状と課題について、教科書にそって解説していきます。講義と教科書を中心に、下記の2冊の参考書を併読することで、マス・コミとマス・メディアについての基本知識を総合的に修得できるように計画されています。 私たちが生活している環境は、メディアによって形成されています。しかしそれは、日々の生活において、あたかも「自然な」環境であるかのように経験されています。マス・メディアについて学ぶことは、この環境が、様々な力関係のなかで歴史的・社会的に構築されてきた（されている）ものであるという批判的認識能力を養うことでなければなりません。この講義がそのための適切な出発点になることを願っています。	【講義計画】 〈前期〉 1 コミュニケーションとしてのマス・メディア：マス・コミュニケーションとは/メディアの進化/マス・コミュニケーション研究の視点 2 マス・コミュニケーションの歴史：近代化以前のマス・メディア/近代化とマス・メディア/大正期のジャーナリズム/統制の時代/戦後のマス・メディア/メディア情報化時代 〈後期〉 3 報道の現状と課題：メディアとは/ニュースの特質/ジャーナリズムの特徴/権力とメディア/報道と倫理/報道の行方 4 マス・メディア産業の現状：新聞/放送/出版/映画 5 社会生活とマス・メディア：テレビと子ども/ジェンダーとマス・メディア/グローバル化とメディア 6 マス・メディアと現代社会			
【成績評価の方法】 原則として年度末試験のみによって評価します。 ただし、自由提出のレポートなどによって若干加点します。	【参考文献】 岡満男・山口功二・渡辺武達（編）『メディア学の現在（改訂版）』（世界思想社、1997年） 佐藤卓己（著）『現代メディア史』（岩波書店、1998年） その他、適宜紹介する。			
【教科書】 春原昭彦・武市英雄（編）『【ゼミナール】日本のマス・メディア』（日本評論社、1998年）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
マス・コミュニケーション論Ⅱ		通 期	4 単位	森 本 良 男
【講義概要・学習目標】 新聞を中心としたマスメディア論・ジャーナリズム論の講義です。マスメディアの影響力が大きくなっていますが、その直面する次のような問題点を探っていきたい。 1、マスメディアの情報の集め方、伝え方。 2、ジャーナリストの仕事、生活、意見。 3、マスメディアの社会的役割と責任。 4、報道の自由とプライバシーの関係。 5、世界のジャーナリズムとマスメディアの歴史。 6、我々はマスメディアの情報をどう読み取ればよいのか。	【講義計画】 〈前期〉 1、いまのメディア状況…マルチメディアと国際化。 2、マスコミの現場から…新聞社を動かす人たちの活動。 3、報道の自由の問題…「プライバシー」「わいせつ」など。 4、情報公開…本当に必要な情報は得られるのか。 〈後期〉 1、アメリカと日本のジャーナリズムの歴史。 2、企業としてのマスメディア…広告、販売制度の問題点。 3、情報化時代をどう生きるか…かしこい読者、視聴者になる方法。			
【成績評価の方法】 学年末の試験の成績を主要な評価とし、年間授業中に4ないし5回課す短いレポート（エッセイ）を参考にします。	【参考文献】 教科書、参考文献とも追って指示する。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際関係論		通 期	4 単位	松村昌廣
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>国際政治関係を体系的に理解するために、国際政治主体、行動、過程、そして構造に注目し、冷戦体制崩壊後のダイナミズムを理論的に把握する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1 導入</p> <p>1) 国際関係論と国際関係における日本</p> <p>2) 国際関係論の諸分野、基礎概念及び一般システムの理解</p> <p>3) 社会科学における認識・方法的論争と国際関係論</p> <p>(1) 現実主義 VS 理想主義 (2) 伝統主義 VS 科学主義</p> <p>(3) 誇大理論主義 VS 個別理論主義 (4) 講師の見解</p> <p>2 総論</p> <p>1) 基本的捉え方</p> <p>(1) 現実主義 (2) 多元主義 (3) グローバリズム (4) 講師の見解</p> <p>2) 分析のレベル</p> <p>(1) 政策決定システム (2) 国家システム</p> <p>(3) 国際システム (4) 講師の見解</p> <p>3 各論</p> <p>1) 軍事的側面</p> <p>(1) 安全保障 (2) 紛争 (3) 講師の見解</p> <p>2) 経済的側面 (貿易・金融・投資・技術・開発)</p> <p>(1) 市場機能中心主義 (2) 国家機能中心主義</p> <p>(3) 資本形成中心主義 (4) 講師の見解</p> <p>3) 秩序づけのための組織化側面</p> <p>(1) 国際法 (2) 国際機構 (3) 国際レジーム</p> <p>4 結論</p> <p>1) 冷戦後の国際構造</p> <p>2) 日本の国際行動とその将来</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>1) 出席・受講状態 50% 2) 前期試験 20%</p> <p>3) 後期試験 30% 4) 冬休みレポート 20%</p> <p>(希望者のみ)</p> <p>*冬休みレポート</p> <p>参考文献3冊を読み、各著者の(1)国際政治観(2)国際政治学観の主要な内容について、三者を対比しながら簡潔に要約し、それぞれについて要約しなさい。</p> <p>**評価の目安</p> <p>80～100% A 70～79% B</p> <p>60～69% C</p>	<p>[参考文献]</p> <p>E・H・カー『危機の20年』(岩波文庫)</p> <p>モーゲンソー『国際政治』(福村出版)</p> <p>シューマン『国際政治』(東大出版会)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>P.ピオティ&M.カピ『国際関係論』(彩流社)</p> <p>ロバート・ギルピン『世界システムの政治経済学』(東洋経済新報社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際機構論		通 期	4 単位	軽 部 恵 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>・ 昨年7月、中央アジアのタジキスタンで国連の政務官としてPKOに参加していた日本人男性が任務中に殺害されました。国連のPKOとはどんな活動ですか?</p> <p>・ あなたが小学生の時に募金した「ユニセフ」とはどんな組織ですか?</p> <p>・ 「湾岸危機」と「湾岸戦争」の違いを説明できますか?</p> <p>民族紛争や環境破壊など、地球規模の問題を解決していく1つの手段が、国連をはじめとする国際機構の活用です。「国連は実際にどんな活動をしているの?」—そんな疑問を持った人はこのクラスを取って下さい。</p> <p>なお、「国際法」と並行して履修すると国際機構論の理解にいい役割を果たします。両者の導入部分は似ていますが、1年を通じた講義の内容は互いに補完しつつも全く別の科目です。</p> <p>* 参考文献は国際法のページも参照して下さい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> 国際機構の成り立ちから国連のしくみまで、重要な原則を学んでいきます。</p> <p>1. 第1次世界大戦以前の国際社会</p> <p>2. 国際連盟の設立と崩壊</p> <p>3. 第2次世界大戦と国際連合の設立</p> <p>4. 国際連合の仕組み・国連憲章、目的、主要機関(総会、安保理、事務局、経済社会理事会、信託統治理事会、国際司法裁判所)、加盟、採決方法、拒否権、日本の常任理事国入り</p> <p>5. 紛争の平和的解決・国連事務総長、国際司法裁判所、常設仲裁裁判所</p> <p>6. 国際平和と安全の維持:集団的安全保障、安保理の強制行動、朝鮮戦争、湾岸危機と湾岸戦争、平和維持活動(PKO)</p> <p><後期> 学生の希望や重大ニュースによって突然内容を変更することがあります。</p> <p>7. 難民の保護:国連難民高等弁務官事務所、旧ユーゴの内戦</p> <p>8. 子どもの権利:ユニセフ、児童労働、児童売春、チャイルド・ソルジャー</p> <p>9. 女性の権利:国連女性の地位委員会、女性差別撤廃条約、女性に対する暴力、従軍慰安婦 他</p> <p>10. 環境問題:地球サミット、温暖化ガスと京都議定書、ワシントン条約</p> <p>11. 経済問題:ブレトンウッズ体制、世界銀行とIMF、GATTとWTO</p> <p>12. 軍縮と国際機構:対地雷雷、生物・化学兵器、核兵器</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>中間試験(前期末)及び学年末試験(後期末)</p>	<p>[参考文献]</p> <p>有斐閣『国際条約集1998年』三省堂『国際関係法辞典』1995年</p> <p>明石康『体験的国際平和論』日本放送協会1998年</p> <p>吉田康彦『国連のしくみ』日本実業出版社1995年 * 国連を内面からも眺められます</p> <p>国連広報局編『創立50周年記念 国連年鑑特別号:国連半世紀の軌跡』中央大学出版部1997年</p> <p>* 国連が過去50年間に採択した重要文書や条約、国連の歴史や活動などが掲載されています</p> <p>家 正治他『新版 国際機構』世界思想社1993年 * 国際機構誕生の歴史が詳しいです</p> <p>天羽民雄『多国籍外交論:国連外交の真相』PMC出版1990年</p> <p>猪口邦子他『日本人は「国連」を知らない』書苑新社1995年</p> <p>加藤俊作『国際連合』慶應通信1992年 斎藤鎮男『国際連合論序説』新有堂1988年</p> <p>川上洋一『国連を問う』日本放送協会1993年 河辺一郎『国連と日本』岩波書店1994年</p> <p>川村亨夫『国連ロイヤルの国際感覚』東京リーガルマインド1994年</p> <p>杉原高嶺『国際司法裁判所判例』有斐閣1995年 福田 菊『国連とNGO』三省堂1988年</p> <p>田所昌幸『国連財政:予算から見た国連の実態』有斐閣1996年</p> <p>最上敏樹『国際機構論』東大出版会1996年 横田洋三『国際機構論』国際書院1992年</p> <p>渡部茂己『国際機構の機能と組織』(第2版)国際書院1997年</p> <p>アラソ・ブレ『コマンチアル国際連合憲章』(全2巻)東京書籍1993年 * 国連憲章の解説</p> <p>M. ヘルトルン『国連の可能性と限界』国際書院1995年 * 著者は国連改革の報告者です</p>			
<p>[教科書]</p> <p>国連広報局編『国際連合の基礎知識』(増補改訂4版)世界の動き社1997年</p> <p>{参考文献(右より続く)} 外岡秀俊『国連新時代:オリーブと牙』ちくま書房1994年</p> <p>横山和子『国際公務員になるには』ベリかん社1996年 同『国際ボランティアをめざす人へ』岩波書店1993年 吉田康彦『国連広報官:国際機関からの証言』中公新書1991年</p> <p>同 編著『国際公務員入門』東洋経済新報社1995年</p> <p><定期刊行物> 『国連人』、『国際開発ジャーナル』、『国際協力プラザ』、『世界の動き』、『国連情報資料』、『世界経済評論』、『ジェトロセンサー』、『エコノミスト』、『アジア動向年報』、『アジア経済研究所年報』、『アフリカレポート』、『UN Chronicle』, 『International Labour Review』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際政治史		通 期	4 単位	村 山 高 康
【講義概要・学習目標】 冷戦構造崩壊後の世界は、ヨーロッパのように経済統合から政治統合へむかう動きがある一方、民族紛争で国家の分裂や内乱が多発している地域もふえていいる。また経済の globalization が急速に進むなかで、世界不況・南北問題・環境問題の深刻化も避けることのできない課題となっている。この講義では、これら現状の諸問題を考える前提に、20世紀全体を「現代史」の考察対象として、この世紀のもつ意味を再解釈することを目指すものとする。		【講義計画】 <前期> 1. 20世紀の意味について 2. 第1次世界大戦 3. 戦間期 - 1919～39年 <後期> 1. 第2次世界大戦 2. 戦後冷戦の時代 3. 冷戦終焉後の現在と「現代史」の意味		
【成績評価の方法】 前後期数回のレポートと学年末試験による総合評価。		【参考文献】 講義の中で随時指示する。		
【教科書】 特定の教科書は使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際法		通 期	4 単位	軽 部 恵 子
【講義概要・学習目標】 昨年5月、インドとパキスタンが相次いで核実験を行いました。冷戦が終結しても、いまだに核兵器を持ちたる国があるのはなぜでしょうか？ そういえば昨年アメリカで再映画化された「ゴジラ」は、そもそも1954年の第五福龍丸事件に抗議の意味を込めて作り出されたキャラクターでした。国際法を学ぶと、今まで何となく聞いていたニュースを全く違った目で見られるようになります。それは、国際社会のルールである国際法を知っていると世界の動きをより深く理解できるからです。そうなりたい人はぜひこのクラスをとって下さい。もちろん、国際公務員など海外にでる職業を目指している人は必ず履修してください。みんなで楽しくかつ真剣に勉強しましょう！ なお、「国際機構論」と並行して履修すると国際法が一層分かりやすくなります。両者の導入部分は似ていますが、1年を通じた講義の内容は互いに補完しつつも全く別の科目です。 ※ 参考文献は国際機構論のページも参照してください。		【講義計画】 <前期> 国際法の重要な原則を様々な事例を通じて学んでいきます。 1. 国際法とは何か：私たちに身近なルールや法律と国際法を比較します 2. 戦争と平和の法（1）：第1次世界大戦、国際連盟の設立と崩壊 3. 戦争と平和の法（2）：第2次世界大戦、ホロコースト、国際連合の設立 4. 国際法の基本原則：「合意は拘束する」、一般法と特別法、国際法と国内法の関係 他 5. 国際法の法源：条約の作成から終了まで、慣習法、強行規範、条約法に関するウィーン条約 6. 国際法の主体としての国家：国家の定義、国家の権利と義務、新国家樹立と国家承認、新政権樹立と政府承認、条約および財産の承継 他 7. 外交使節と外交特権：外交関係に関するウィーン条約、在ペルー日本大使公邸人質事件 他 8. 海外旅行に役立つ国際法：旅行中にテロ事件に巻き込まれたら？ 他 <後期> 学生の希望や重大ニュースによって予定を変更する場合があります。 9. 国家領域と国際化地域：領土、内水、南極；領域の得喪；日本の領土問題、香港返還 10. 海の国際法：領海、接続水域、経済水域、大陸棚、深海底、公海 11. 空の国際法：領空、シカゴ条約、宇宙条約、月協定；ハイジャック 12. 個人と国際法：国籍、外国人の法的地位、人権、難民 13. 国際人道法と戦争犯罪：ハーグ平和会議、ジュネーブ諸条約；東京裁判 他 14. 戦後補償：サンフランシスコ平和条約、従軍慰安婦、国籍条項 他 15. 日米安保条約：旧条約と新条約の比較、事前協議、新ガイドライン、日米地位協定 他		
【成績評価の方法】 中間試験（前期末）及び学年末試験（後期末）		【参考文献】 有斐閣『国際条約集1999年』 三省堂『国際関係法辞典』1995年 明石康『体験的国際平和論』日本放送協会 1998年 大沼保昭編『資料で読み解く国際法』東信堂 1996年 ※ 重要な資料が掲載されています 奥脇直也他『国際法キーワード』有斐閣 1997年 ※ 用語を調べるのに手軽で便利です 吉田康彦『図解 国連のしくみ』日本実業出版社 1995年 ※ 国連を内面からも眺められます 国連立憲局編『創立50周年記念 国連年鑑特別号：国連半世紀の軌跡』中央大学出版部 1997年 同『国連連合の基礎知識』（増補改訂4版）世界の動き社 1997年 ※ これ1冊で「国連連立」！ 佐藤義彦他『サイエンス・オブ・ロー事始め』有斐閣 1998年 ※ 法律の初学者に最適です 田畑茂二郎他編『ニューハンドブック国際法』（第3版）有信堂 1996年 金 東興他『ホーンブック国際法』（改訂版）北樹出版 1995年 島田征夫他編著『ケースで学ぶ国際法』成文堂 1995年 ※ 国際法を実践的に学べます 田畑茂二郎他編『ケースブック 国際法』（新版）1995年 有信堂高文社 ※ 重要判例集 松井芳郎他『国際法』（第3版）有斐閣 1997年 黒沢満編『憲法問題入門』東信堂 1996年 同『核軍縮と国際法』有信堂高文社 1992年 松井芳郎他『朝鮮戦争と国際法』日本評論社 1994年 阿部治己及び今井直著『テキストブック国際人権法』日本評論社 1996年 増田弘他編著『日本外交史ハンドブック：解説と資料』有信堂高文社 1996年		
【教科書】 横田洋三編『国際法』有斐閣 1997年 [参考文献] (右より続く) 水村光男『この一冊で世界の歴史がわかる！』三笠書房 1996年、高藤伸夫編著『この一冊で世界の地理がわかる！』三笠書房 1998年、猿谷要『この一冊でアメリカの歴史がわかる！』三笠書房 1998年、『国際法外交経法』（年6回）、『国際問題』（月刊）、『外交フォーラム』（月刊）、『世界通報』（週刊）、外務省『外交教育書』（年刊）、防衛庁『防衛白書』（年刊）、外務省外務報道官編『世界の国一覽表』世界の動き社（年刊）、朝日新聞社『朝日キーワード』（年刊）、『朝日キーワード別冊・国際編』1996年、時事通信社『国際情勢ニュースワード』（年刊）、集英社『イミダス』（年刊）、自由国民社『現代用語の基礎知識』（年刊）、朝日新聞社『知恵蔵』（年刊）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
政治学原論		通 期	4 単位	捧 堅 二
【講義概要・学習目標】 理論のための理論ではなく、現代政治を的確に認識できるための政治学の理論を講義したいと思います。とくに今年の授業は＜世紀末＞から＜21世紀＞を大胆に展望するつもりです。	【講義計画】 政治学の起原/「左」と「右」/政治における思想と行動/イデオロギー/真理と政治/プラトンと哲人王/政治と人間（方便としての性悪説）/マキャヴェッリの政治理論/近代国家/官僚制/自由主義/民主主義/共和主義/共産主義/社会民主主義/「長い19世紀」/「短い20世紀」/「21世紀」にむかって/ラスキと多元的国家論/ブレアと「第三の道」/「アソシエイティヴ・デモクラシー」とは何か			
【成績評価の方法】 テスト	【参考文献】 田畑稔ほか『21世紀入門』青木書店、1999年刊行予定 『「第3の道」とは何か』五月書房、1999年5月刊行予定			
【教科書】 第1回目の授業で指示します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域研究 I（欧米の政治と社会） （旧地域研究 I）		通 期	4 単位	村 山 高 康
【講義概要・学習目標】 アメリカ（合衆国）とヨーロッパ（おもに西欧諸国）の政治と社会の現状分析を中心にして講義する。前期は、はじめに欧米政治の現状を理解するため、第二次大戦後の冷戦史の概観を行い、つづいて現代欧米世界の政治・経済・社会の、とくに冷戦構造崩壊後の動向を分析した後、アメリカについて近年の大きな社会変動のもつ意味やクリントン政権の政策についての分析をすすめる。後期は、ヨーロッパは欧州連合（E U）の現状と今後の動向について、国家主権・安全保障・経済統合・民族問題・地域主義などの課題を順次とりあげ分析する。	【講義計画】 <前期> 1. 冷戦構造成立の背景 2. 冷戦後の世界 3. アメリカ社会の変動 a. クリントン政権登場の背景 b. アメリカの伝統的政治思想の混迷 <後期> 1. ヨーロッパ世界の現状 2. 欧州連合へのあゆみ 3. 欧州連合の現状と問題点 4. 欧米世界の直面する課題			
【成績評価の方法】 前後期数回のレポートと学年末試験による総合評価。	【参考文献】 講義の中で随時指示する。			
【教科書】 特定の教科書は使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域研究Ⅱ（ロシア・東欧の政治と社会） （旧地域研究Ⅱ）		前期集中	4 単位	鈴木博信
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>「ソビエト帝国の興隆と崩壊」が主題です。</p> <p>【Ⅰ】ソビエト連邦(旧帝国)の東欧支配と「外帝国」形成はどのように進んだか？</p> <p>【Ⅱ】東欧諸民族は受け入れられ、どのように抵抗してきたか？</p> <p>【Ⅲ】東欧圏(外帝国)はどのようにしてソビエトの支配から解放されたか？(1989)</p> <p>ソビエト連邦本体(旧帝国)はどのようにして崩壊したか？(1991)</p> <p>以上の過程を経たことにより、本講義は「帝国主義と革命」を骨格として形成されていた「ソビエト帝国」が、どのようにして崩壊したか、に迫る。</p>	<p>【Ⅰ】ソビエト連邦の東欧支配はどのように進んだか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヤロス 1945：第二次大戦と東欧再分割 2. バコラド 1948：「もともとの帝国」に集約 <p>【Ⅱ】東欧諸民族は、くりかえし自立・独立を求めてきたか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. プラハ 1956：「プラハの春」と「再分割」 4. プラハ 1968：「南の風」は社会主義の改革の夏 <p>【Ⅲ】東欧圏はどのようにしてソビエトの支配から解放されたか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. グダニク 1980：社会主義国における「古典的労働者革命」 6. ベルリン 1989：ゴルバチョフ登場と「外帝国」解放 7. モスクワ 1991：「旧帝国」の瓦解 8. ソビエト帝国か？ 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 年度末試験(レポートを含むことあり)、 2. 授業に於いて課す小レポート、を総合して判定する。 	<p>○アガノウラ、鈴木博信訳「解題と共存—ソビエト外交史」全3巻 サイマル出版会 1994</p> <p>○原 暉之 編集代表「講座 スラヴの帝国」全8巻 弘文堂 1992～95</p> <p>○川崎香里子訳「ロシア・連邦を知る事典」平凡社 1990</p> <p>○伊東孝文訳「東欧を知る事典」平凡社 1993</p> <p>○ケルソフスキ、梅本浩志訳「ワルシャワの蜂起 1944」筑摩書房 1989</p> <p>○木下 尚「激動の東欧史」中公新書 1990</p> <p>○笹本駿三編「東欧の動乱」(『現代史10』)平凡社 1972</p> <p>○南村信吾 編著「東欧革命と民族」朝日選書 1972</p> <p>○佐瀬昌盛「チェコ補綴史—かつて戦車が行った—」サイマル出版会 1983</p> <p>○マーチン・メイト、白根菜子訳「ソビエトの覇権」上下2巻 豊臣社 1997</p> <p>* 1巻：スラヴの文化、2巻：スラヴの民族、3巻：スラヴの歴史、4巻：スラヴの社会 5巻：スラヴの政治、6巻：スラヴの経済、7巻：スラヴの国際関係、8巻：スラヴと日本</p>			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域研究Ⅲ（発展途上国の政治と社会） （旧地域研究Ⅲ）		通 期	4 単位	村上公敏
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>世界における特定地域（この講義では東南アジア地域を中心に）の社会や文化の捉え方を、次の三点の方法論的視覚から論ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 東南アジアの人口分布とエコロジカルな特徴を通じて、地域とは何か、地域研究の目標とは何かの基本を考える。 2 先史から古代までの社会で形成された東南アジア社会と文化の基本特徴（基層文化）をつかむ。 3 世界史の一部、あるいは、他地域からの文明的・文化的影響、それへのこの地域からの対応関係から、地域社会・文化の歴史の形態が浮きぼりにされてきたことを明らかにする。それは、中国文明、インド文明、イスラム文明、西欧文明に対する東南アジア地域住民の受容と対応の内発的営為のプロセスとその結果であるため、そのプロセスを通じて社会的・文化的にこの地域のもつ個性および普遍性を考察していく。 	<p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「地域」社会・文化の捉え方の一般論 4月 2. 東南アジアの基層文化 5月・6月 3. 中国文明と東南アジア 6月・7月 <p>〈後期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インド文明と東南アジア 9月・10月 2. イスラム文明と東南アジア 10月・11月 3. 西欧近世・近代文明と東南アジア 11月・12月 4. 終論 東南アジア地域社会・文化 1月 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>前期末に中間テスト、後期末に本テストをペーパー試験で行う。</p>	<p>多数になるため特定できない、その都度示す。</p>			
[教科書]				
<p>村上公敏（著）『東南アジア地域文化の捉え方』（見洋書房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会地理学		通 期	4 単位	野 尻 亘
[講義概要・学習目標] <p>20 世紀の資本主義文明がもたらした都市社会、そこにはさまざまな人々が働き、居住し、生活する社会空間の多様なモザイク模様をみることができる。都市において、高級住宅地やスラム街・オフィス街は、どのようなプロセスを経て成立するのか。欧米都市において、人々はなぜ民族や社会階層によって住み分けてきたのか。このような差別や不平等な空間構造はいかにして作られるのか。平等ですべての人々が共生する都市社会とはどのようなものか。</p> <p>20 世紀に入ってから、社会学者や地理学者はこのような問題にさまざまな関心をよせてきた。この授業では、これらの多くの諸学説を展望し、整理するとともに、都市、さらにはその対比としての伝統的な村落社会の社会空間構造をどのように説明するかを考えることとした。</p>		[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論――地域・景観・空間―― 形態論と機能論的考察 2. 社会理論と地理学 3. 20 世紀初めのシカゴ 大都市問題の発生と分析手法の成立 4. 大都市の古典的な社会空間構造モデル 5. シカゴ学派社会学の意義と限界 6. 集会的共同消費としての都市 7. 社会的稀少資源の配分としてみた都市 8. 建造環境としての都市 9. ギデンスの構造化理論と時間地理学 10. マルクス構造主義批判としての都市の人文主義的解読 11. 新しい産業社会 ポストフオーダイズムとジャスト イン タイム 12. 伝統的村落社会の基本空間 13. まとめ 		
[成績評価の方法] <p>試験にするかレポートにするかは、授業の進捗や履修状況を見て、決定する。</p>		[参考文献] <p>吉原直樹 『都市空間の社会理論』 東京大学出版会</p>		
[教科書] <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際政治事情研究		通 期	4 単位	松村昌廣
[講義概要・学習目標] <p>国際関係概説としての性格を持たせながら、常識ではなかなか考えられないような国際政治の実体を紹介する。公開されているが、なかなか普通には目にしないような材料を使って、学生諸君に分析的、実証的に思考する素養を身につけさせることを本講義の目的とする。</p> <p>政治学や国際関係論などの理論的訓練を受けていないことを前提に講義を進めるので、社会学部以外の学生や、社会学部の国際社会コースを選択していない学生でも理解できるように十分配慮する。</p>		[講義計画] <p>実際の国際関係の展開を踏まえながら、講義のテーマを選んでいく方針である。</p>		
[成績評価の方法] <p>* 「A」を目指す学生： 講師の指示に従い研究レポートを作成する。</p> <p>** 「BC」を目指す学生： x 出席率と期末試験を総合的に考えて評価する。試験課題としては「分析的な」（意味に注意！）感想文を考えている。</p>		[参考文献] <p>レポートを書く学生は</p> <p>H・J・ウィアルダー「比較政治の新動向」（東信社）</p>		
[教科書]		<p>をかならず読むこと。</p>		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際社会特講 (冷戦史の諸局面)		前 期	2 単位	鈴木博信
[講義概要・学習目標] 主題は、「冷戦史：1945～1991」です。 — 共通の敵ナチ・ドイツに倒れるや、米ソ両大国間を 宣戦布告もなほびり、半世紀近くつらいたち、戦勝ムードもなほ あつた《Cold War》の時代、を回顧・展望し、「われわれはどの 時代に生きているのか？」を洞察する足場を固めたい。 巨大なスケールのこの主題を組織的・包括的に取扱 ことは断念し、冷戦時代の主要な事件について、濃度を 絞る。 右の「講義計画」は、一定の時間的枠組みであり、 具体的には、★マルサの取組む、★対日原爆投下決定の内幕、 ★米ソ両国が核対決の深淵を覗き込んだ時、キューバのミサイル危機、 ★「ベルリンの壁」をめぐりつ、★核兵器をめぐり米ソの読み合い、などに 論議の重点を置く予定。	[講義計画] <ol style="list-style-type: none"> 1. ヨーロッパにおける冷戦の起源：1945～49 2. 共産中国とアジアにおける冷戦：1945～53 3. 「平和共存」と核対決：1953～64 4. アメリカとヴェトナム：1945～75 5. 米ソ両大国と中国：1949～80 6. 1970年代米ソ向「デタント」(緊張緩和)の進行と停滞 7. レーガン、ゴルバチョフ、そして冷戦の終わり：1981～91 			
[成績評価の方法] <ol style="list-style-type: none"> 1. 年度末試験(レポートに含むことあり)、 2. 必要に応じて課す小レポート、 を総合して判定する。 	[参考文献] ○高坂正堯「現代の国際政治」講談社学術文庫 1989 ○仲見「パックス・アメリカナの転回——ソ連の崩壊と現代史」 岩波書店 1992 ○アダム・ウツム、全金木博信訳「膨脹と共存——ソヴェト外交史」 全3巻 サイマル出版会 1974 ○森本良男「冷戦一人と事件」サイマル出版会 1995 ○ジョン・シャーニク、全利光訳「激動の母国」TBSブリタニカ 1989 ○フローラ・ルイス、友田 錫訳「ヨーロッパ」上下2巻 河出書房新社 1990			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
政治学		通 期	4 単位	捧 堅 二
[講義概要・学習目標] 現代の政治を理解する上での基本的な諸概念について学ぶ。 同時に、日本、アメリカ、イギリス、北朝鮮などの諸国の具体的な政治について つねにわかりやすく説明しつつ、授業をすすめてい。ときどきの時事問題にも論 及するつもりである。	[講義計画] 民主主義/政党/議会/議院内閣制/大統領制/選挙制度/政党制 /日本の政治/アメリカの政治/イギリスの政治/独裁/全体主義/ ナチズム/共産主義体制/北朝鮮の政治			
[成績評価の方法] テスト	[参考文献]			
[教科書] 第1回目の授業で指示します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
統計学		通 期	4 単位	井 上 勤
[講義概要・学習目標] 理論中心の確率論や長い長い積分の計算は、 具体例から入り、どのようにに統計学の基礎概念が形成 されるかの観点から講義を進めて行く 高校の「数学Ⅰ」の知識があれば十分であり、学修形 態がよければ最上である。計算では電卓を使用するの が必須である。	[講義計画] 1. 記述統計 (度数分布, 代表値, 散布度) 2. 確率分布 (二項分布, 正規分布他) 3. 推測統計 (推定, 検定)			
[成績評価の方法] 主資料は前期(7月)後期(1月)試験であるが 平常授業の出席状況、演習も加味する。またレポートも 課すものがある。	[参考文献]			
[教科書] 小寺 平治 著 新統計入門 裳華房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人間工学概論		通 期	4 単位	三 戸 秀 樹
[講義概要・学習目標] 人間と機械のかかわりは古い。この人間と機械の関係から発生した人間工学 に関する基礎的理解を深め、今後の人間と機械の関係のあり方について言及す る。近年の機械系、とくにコンピューター化の進歩にともなう、人間 らしい“人間-機械”の関係が実現しつつある反面、労働場面では、非人間的 な“人間-機械”の関係が観察される。この非人間的側面は、かつて労働にあ った「働きがい」をも失わせる要素を有しはじめている。さらに、一部では産 業ストレス時代ともいわれ、真に人間中心的な視点に基づいた人間工学導入が 緊要である。 単なる既存知識の習得に主眼をおくのではなく、働く人々の個々のおかれて いる状況・状態にたえず疑問を発しながら、「どうしてそうなのか」「どうす れば良くなるのか」を、人間工学的に考える姿勢を重視する。人間を中心とす えた視点から人間工学の基本を学びとって欲しい。	[講義計画] <前 期> (1) はじめに 人間工学の定義、労働態様の変化、 (2) 人間特性 生体次元、感覚入力系、覚醒水準、生体リズム、反応特性、性差、 疲労、蓄積性疲労、 <後 期> (3) 人間と機械 マン・マシン・インタフェース、頸肩腕障害、振動障害、VDT作業、 テクノストレス、 (4) 応用人間工学 障害者、二次的障害、高齢化、安全人間工学、交通科学、 (5) 労働の快適化 労働の人間化、ゆとり、			
[成績評価の方法] テストとレポートを予定	[参考文献] 労働と健康の科学研究会(編)「労働と健康の科学」(労働経済社) 三戸秀樹ほか(著)「安全の行動科学」(学文社) 千田忠男ほか(著)「労働科学論入門」(北大路書房)			
[教科書] 横溝克己・小松原明哲(共著)「エンジニアのための人間工学(改訂)」 (日本出版サービス)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者				
情報システム概論 (旧情報処理概論)	01	通期	4単位	小池俊隆				
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>企業活動にとって、コンピュータは無くてはならない存在になっている。さらにコンピュータはわれわれの日常生活の中にも入ってきた。家庭でも、インターネットなどを通じてさまざまな情報にアクセスすることができるようになり、それを使いこなすためには、いろいろなコンピュータ技術を利用することが必要になってきている。</p> <p>このような状況の中で、社会人として活躍するためには、情報システムに関する広範な知識を常識として備えておく必要がある。</p> <p>この講義では、上のような観点から、コンピュータの基礎、データの記憶と表現、ハードウェアとソフトウェア、データ処理とファイル、コンピュータと通信、経営と情報システム、などについて論じる。</p>	<p>[講義計画]</p> <table> <tr> <td>〈前期〉</td> <td> コンピュータの歴史 情報の表現 ハードウェアの構成 コンピュータでの情報処理方式 コンピュータシステムの信頼性 コンピュータとソフトウェア </td> <td>〈後期〉</td> <td> ソフトウェア オペレーティングシステム ソフトウェアの開発 ファイルとデータベース コンピュータと通信 ネットワーク </td> </tr> </table>				〈前期〉	コンピュータの歴史 情報の表現 ハードウェアの構成 コンピュータでの情報処理方式 コンピュータシステムの信頼性 コンピュータとソフトウェア	〈後期〉	ソフトウェア オペレーティングシステム ソフトウェアの開発 ファイルとデータベース コンピュータと通信 ネットワーク
〈前期〉	コンピュータの歴史 情報の表現 ハードウェアの構成 コンピュータでの情報処理方式 コンピュータシステムの信頼性 コンピュータとソフトウェア	〈後期〉	ソフトウェア オペレーティングシステム ソフトウェアの開発 ファイルとデータベース コンピュータと通信 ネットワーク					
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験により評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>宮崎正俊・白鳥則郎・川添良幸（共著）『コンピュータ概説 [第2版]』（共立出版）</p>							
<p>[教科書]</p> <p>井上義祐・小池俊隆他（共編著）『経営情報処理概論 [改訂版]』（同文館）</p>								